

目次

1. 序章	1
(1) 計画策定の背景及び目的について	2
(2) 対象エリアについて	3
(3) 関連計画の整理	4
2. 地域の現状と特性について	5
(1) 地域を取り巻く現状について	6
(2) 上曾トンネルの開通が地域に与える影響	16
(3) 調査結果の概要	22
(4) 地域の特性・課題のまとめ	33
3. 目指すべき方向性と必要な機能	35
(1) 目指すべき方向性	36
(2) 必要な機能について	37
4. 地域の将来像	39
5. 今後について	42
6. 資料編 ～策定経緯～	44
(1) 策定の経緯	45
(2) 上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会について	46
(3) 上曾トンネル周辺地域活性化ワークショップについて	49

1. 序章

1. 序章

(1) 計画策定の背景及び目的について

桜川市と石岡市間を結んでいる峠道（上曾峠）の下を、新たな道路としてトンネルでつなぐ（仮称）上曾トンネル整備事業※1が平成30年より開始されており、令和7年度の開通が予定されています。トンネルの開通によって桜川市と石岡市間のアクセスが向上し交通量が増加する等、様々な変化が想定されています。

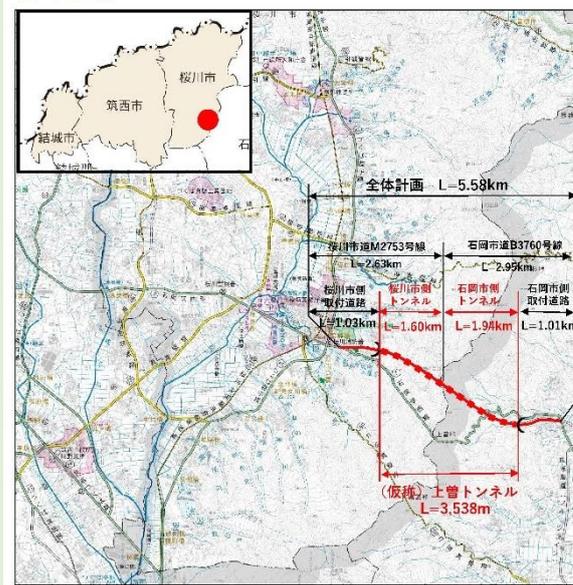
周辺地域が目指すべき方向性や必要な機能を示すことで、トンネルの開通に併せたまちづくりを進め、周辺地域の魅力を高め、地域の活性化を図ることを目的として、上曾トンネル周辺地域活性化基本構想を策定します。

※1：名称が正式に決まっていないため、（仮称）となっています。なお、この後の記述においては、（仮称）を省略します。

■（仮称）上曾トンネル整備事業について

上曾トンネル整備事業は、桜川市と石岡市間を結んでいる峠道（上曾峠）の下を、新たな道路としてトンネルでつなぐ幹線路整備事業です。上曾峠を通る主要地方道石岡筑西線は、山岳道路で道路が狭隘であり、視距も悪く危険であることに加え、冬季には積雪及び路面凍結により、通行規制が余儀なくされています。本トンネルを整備することにより、大型車両を含む一般車両の通行が円滑になり、災害時の緊急輸送道路や、東西地域間の交流促進、地域振興に大きく寄与することが期待されます。また、県西地域から茨城空港までを東西に結ぶ基軸が形成されることから、県南・県西地域間の連携強化を図り、地元産業や物流・観光を支える重要な路線となります。

【位置図】



資料：茨城県

(2)対象エリアについて

本基本構想の対象となる上曾トンネル周辺地域は、トンネル開通後の効果が見込まれる以下のエリアを中心とした地域になります。



(3) 関連計画の整理

「桜川市第2次総合計画」を上位計画とし、関連する計画や今後策定される計画との連携を図りながら構想を具現化していきます。

■ 桜川市第2次総合計画

計画期間	平成29年度～令和8年度
計画の趣旨	将来における市のあるべき姿と進むべき方向について定めるものです。また、市民、各種団体、企業、行政等、市に関わる全ての人々が、ともに理解し協力して取り組むまちづくりの目標を定めるとともに、自主・自立を基本とする責任ある行政運営を進めるための指針として定めます。
まちの将来像	『ヤマザクラと市民の幸せが咲くまち 桜川』
基本理念	<ul style="list-style-type: none"> I. 共生 子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり II. 学び 生きがいを育む学びのまちづくり III. 安心 安全安心な暮らしのまちづくり IV. 活力 活力ある産業のまちづくり V. 快適 快適な暮らしのまちづくり VI. 自治 みんなで築く自治のまちづくり
主な関連施策	<p>政策2 学び 生きがいを育む学びのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 2-2 生涯学習・芸術文化活動の推進 2-5 文化財の保存活用 <p>政策3 安心 安全安心な暮らしのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 3-3 交通安全対策の推進 <p>政策4 活力 活力ある産業のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 4-1 農林業の振興 4-2 商工業の振興 4-3 観光の振興 <p>政策5 快適 快適な暮らしのまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 5-1 計画的な土地利用の推進 5-2 景観の良い住環境の保全 5-3 道路網の整備 5-4 公共交通の充実 <p>政策6 自治 みんなで築く自治のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 6-1 市民協働のまちづくり

2. 地域の現状と特性について

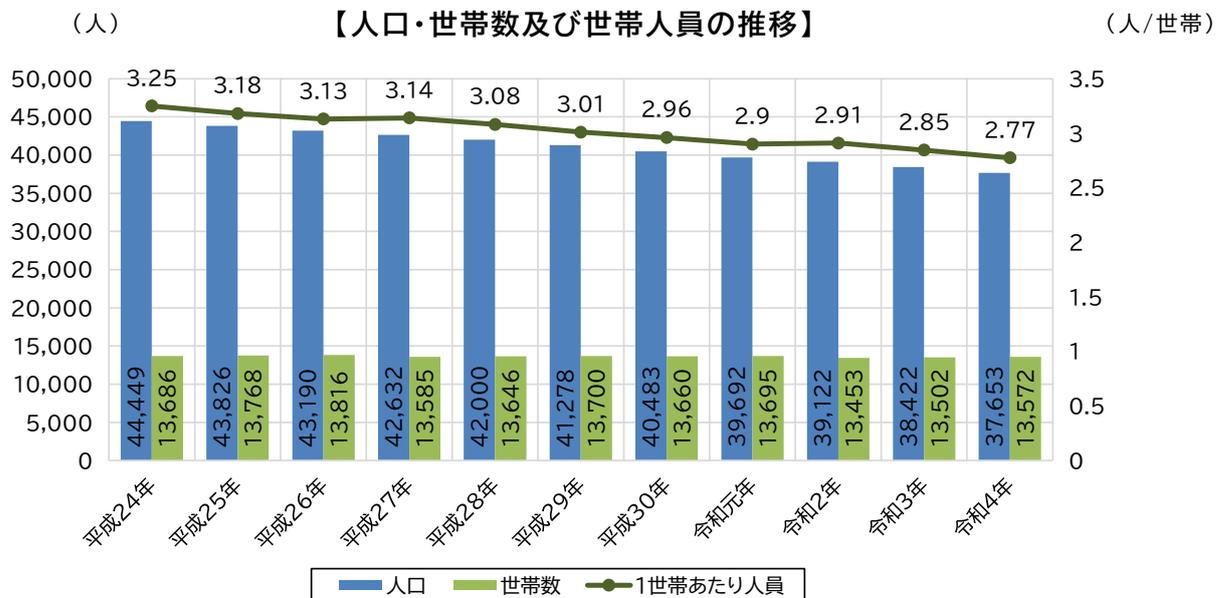
2. 地域の現状と特性について

(1) 地域を取り巻く現状について

① 人口・世帯

本市の人口は令和4年10月1日現在で37,653人となっています。近年は一貫して減少傾向が続いており、平成24年以降、10年間の減少数は6,796人に上ります。同様に世帯数も微減傾向にありますが、増加に転じる年もみられる等、人口に比べて減少幅は小さく、横ばいで推移しています。

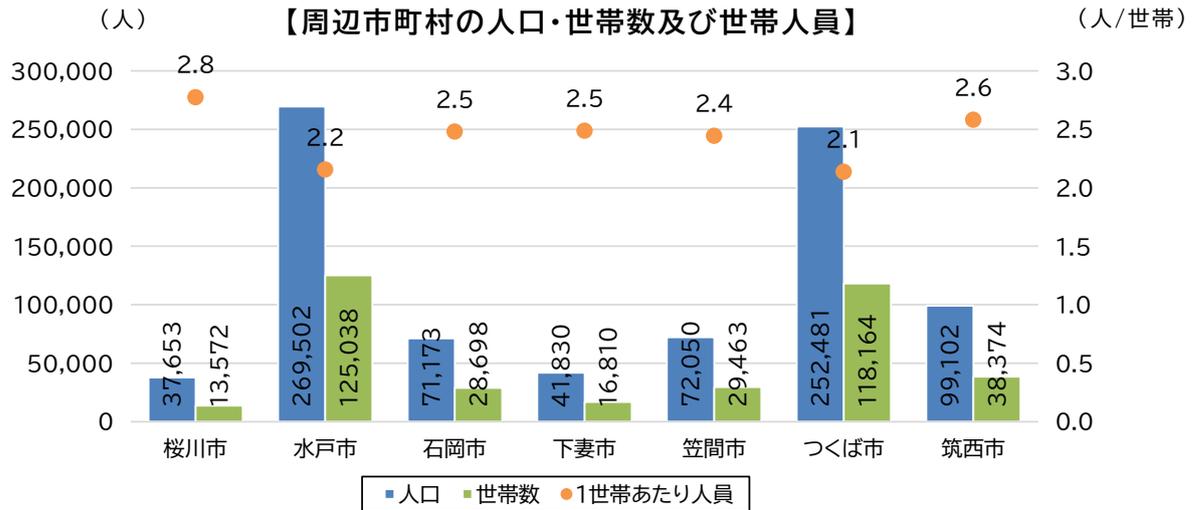
なお、茨城県内の44市町村において、本市は人口で30位、世帯数で32位といずれも中位から下位に属しており、1世帯あたり人員の2.8人は1位と最も多く、核家族化が進む中であって、特徴的な要素といえます。



年次	人口			世帯数	1世帯あたり人員
	総数	男性	女性		
平成24年	44,449	21,841	22,608	13,686	3.3
平成25年	43,826	21,536	22,290	13,768	3.2
平成26年	43,190	21,230	21,960	13,816	3.1
平成27年*	42,632	20,963	21,669	13,585	3.1
平成28年	42,000	20,676	21,324	13,646	3.1
平成29年	41,278	20,321	20,957	13,700	3.0
平成30年	40,483	19,951	20,532	13,660	3.0
令和元年	39,692	19,645	20,047	13,695	2.9
令和2年*	39,122	19,359	19,763	13,453	2.9
令和3年	38,422	19,033	19,389	13,502	2.8
令和4年	37,653	18,665	18,988	13,572	2.8

各年10月1日現在の常住人口

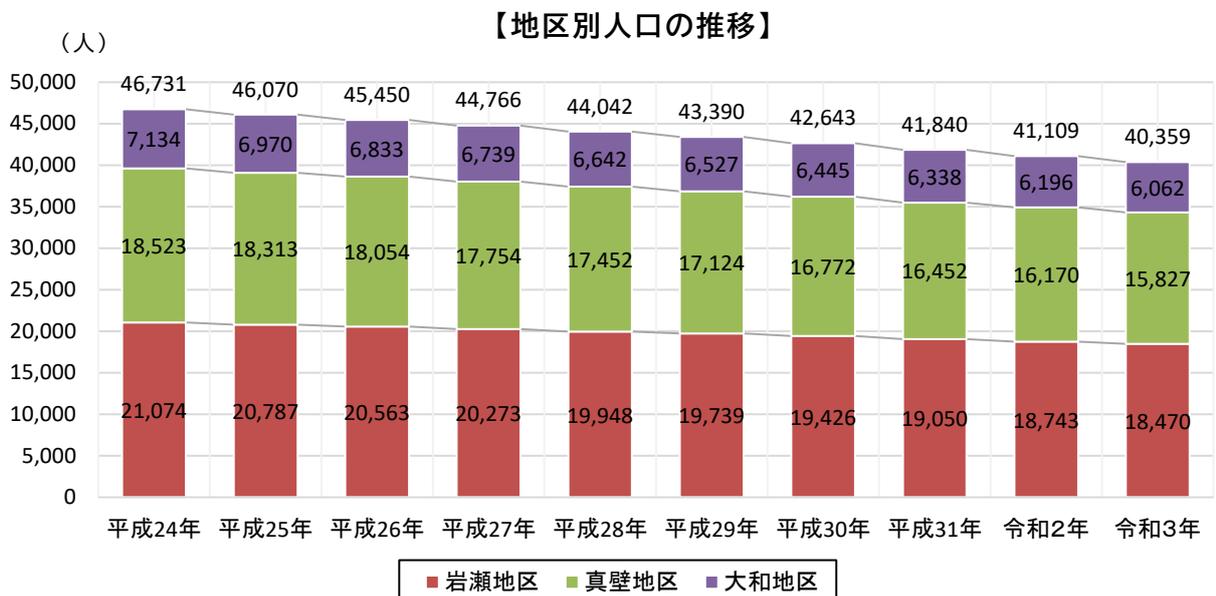
資料：茨城県常住人口調査・国勢調査(※)



市町村等	人口			世帯数	1世帯あたり人員
	総数	男性	女性		
茨城県	2,841,084	1,418,532	1,422,552	1,211,669	2.3
桜川市	37,653	18,665	18,988	13,572	2.8
水戸市	269,502	131,978	137,524	125,038	2.2
石岡市	71,173	35,264	35,909	28,698	2.5
下妻市	41,830	21,127	20,703	16,810	2.5
笠間市	72,050	35,287	36,763	29,463	2.4
つくば市	252,481	126,837	125,644	118,164	2.1
筑西市	99,102	49,221	49,881	38,374	2.6

令和4年10月1日現在の常住人口
資料：茨城県常住人口調査

本市の人口を地区別（真壁・岩瀬・大和）にみると、令和3年3月31日時点では、岩瀬地区の18,470人が最も多く、次いで真壁地区の15,827人、大和地区の6,062人の順となっています。長期的な減少傾向は3地区とも共通しており、減少率にも大きな違いは見られません。

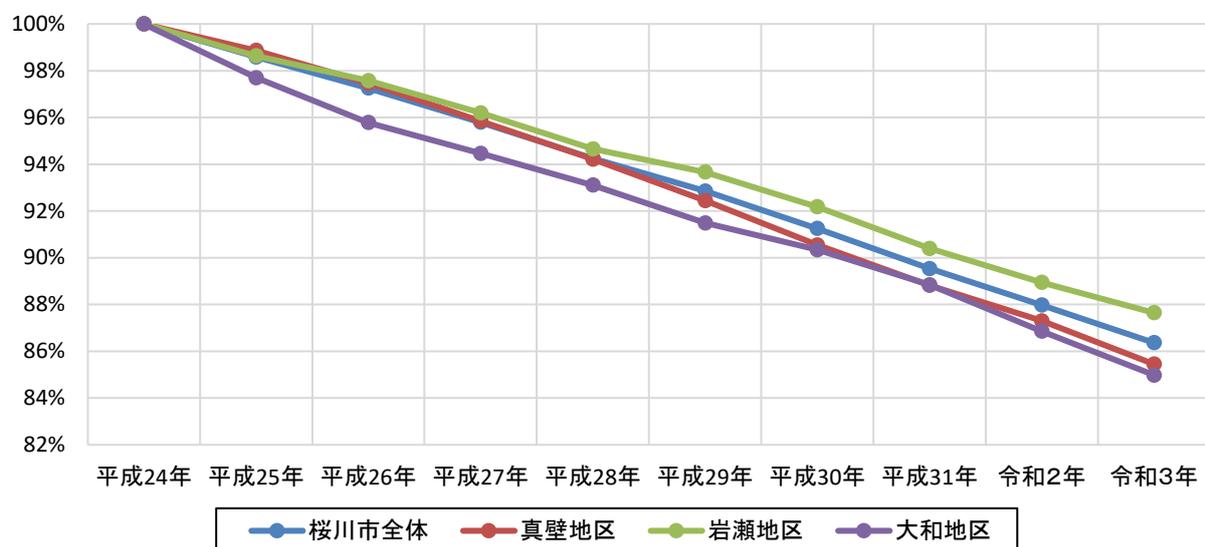


(人)

年次	総数	真壁地区					岩瀬地区	大和地区
		総数	真壁	紫尾	谷貝	樺穂		
平成24年	46,731	18,523	8,080	3,822	2,377	4,244	21,074	7,134
平成25年	46,070	18,313	7,996	3,792	2,364	4,161	20,787	6,970
平成26年	45,450	18,054	7,890	3,724	2,348	4,092	20,563	6,833
平成27年	44,766	17,754	7,795	3,639	2,310	4,010	20,273	6,739
平成28年	44,042	17,452	7,694	3,538	2,285	3,935	19,948	6,642
平成29年	43,390	17,124	7,527	3,475	2,250	3,872	19,739	6,527
平成30年	42,643	16,772	7,374	3,406	2,218	3,774	19,426	6,445
平成31年	41,840	16,452	7,262	3,342	2,201	3,647	19,050	6,338
令和2年	41,109	16,170	7,132	3,267	2,161	3,610	18,743	6,196
令和3年	40,359	15,827	7,003	3,179	2,129	3,516	18,470	6,062

各年3月31日現在
資料：住民基本台帳

【地区別人口の推移の比較】



平成24年を100%とした場合の比率

各年3月31日現在

資料：住民基本台帳

本市の人口は減少傾向にあり、上曽トンネル周辺地域の中心がある真壁地区についても同様です。人口が減少していくなかで、活力ある社会を維持していくため、新たな付加価値の創出や市外との連携による地域課題の解決等、新たな取り組みを図っていく必要があります。

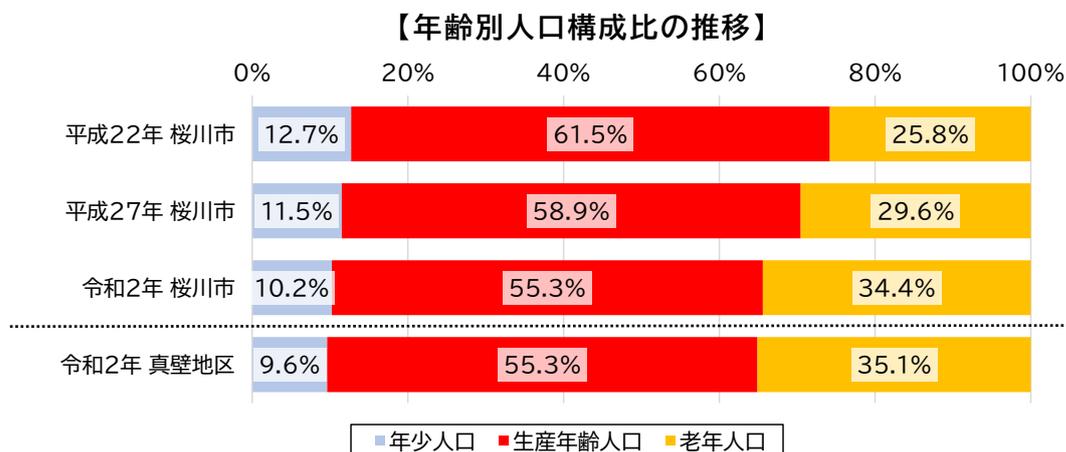
②年齢別人口

本市の年齢別人口をみると、令和4年10月1日現在で、年少人口（14歳以下）が3,570人（構成比9.5%）、生産年齢人口（15～64歳）が20,327人（同54.0%）、老年人口（65歳以上）が13,621人（同36.2%）となっています。構成比の推移をみるに、高齢化の傾向となっています。



*年齢不詳を除いているため、合計値は全体と一致しない

資料：国勢調査、茨城県常住人口調査



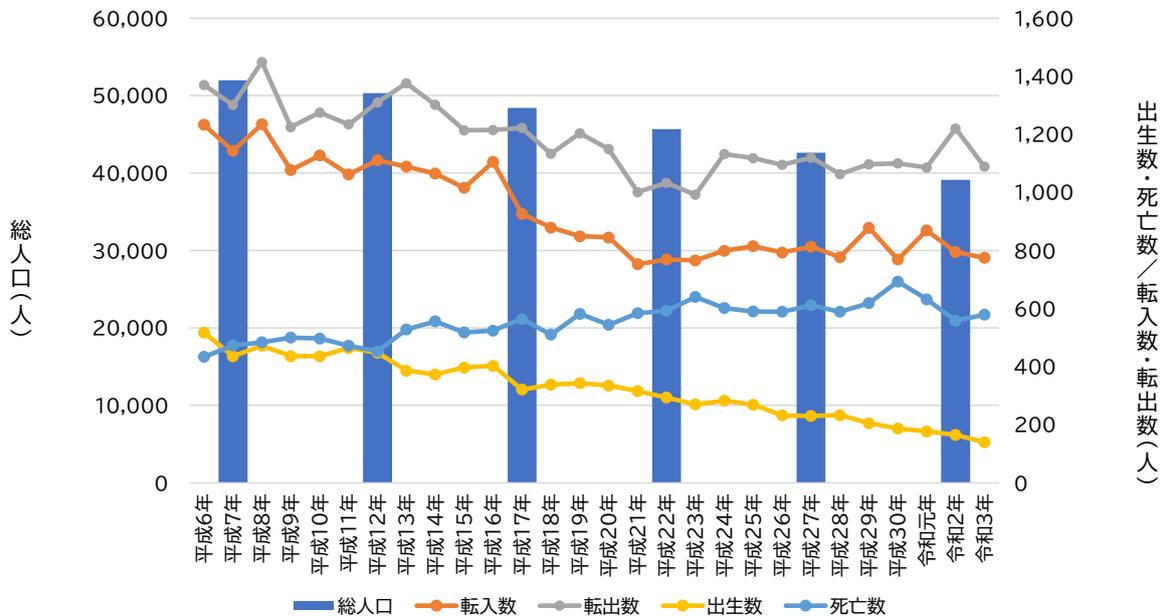
資料：国勢調査

本市の年齢別人口構成は少子高齢化へ推進しており、上曽トンネル周辺地域の中心がある真壁地区についても同様の傾向を示しております。働き手の確保や子育て世帯の確保等が必要です。

③人口動態

本市の人口動態は転入者数が転出者数を下回る人口の社会減、出生数が死亡数を下回る人口の自然減の状態が続いております。合計特殊出生率や女性の人口も減少傾向にあり、15歳～34歳の若い世代で市外への流出が顕著となっています。

【出生数・死亡数／転入数・転出数の推移】



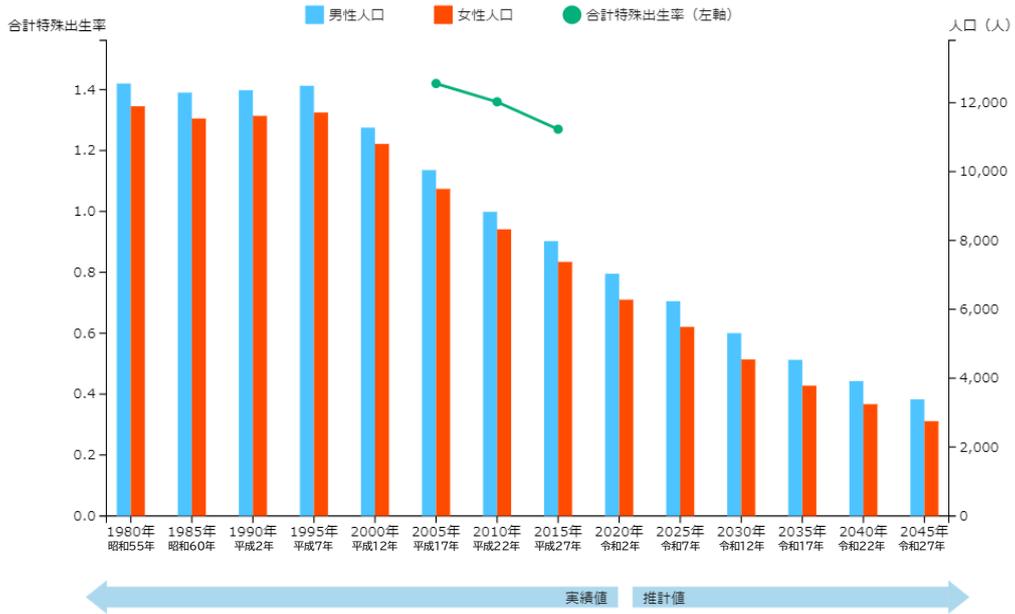
資料：RESAS

【自然増減・社会増減の推移の推移】



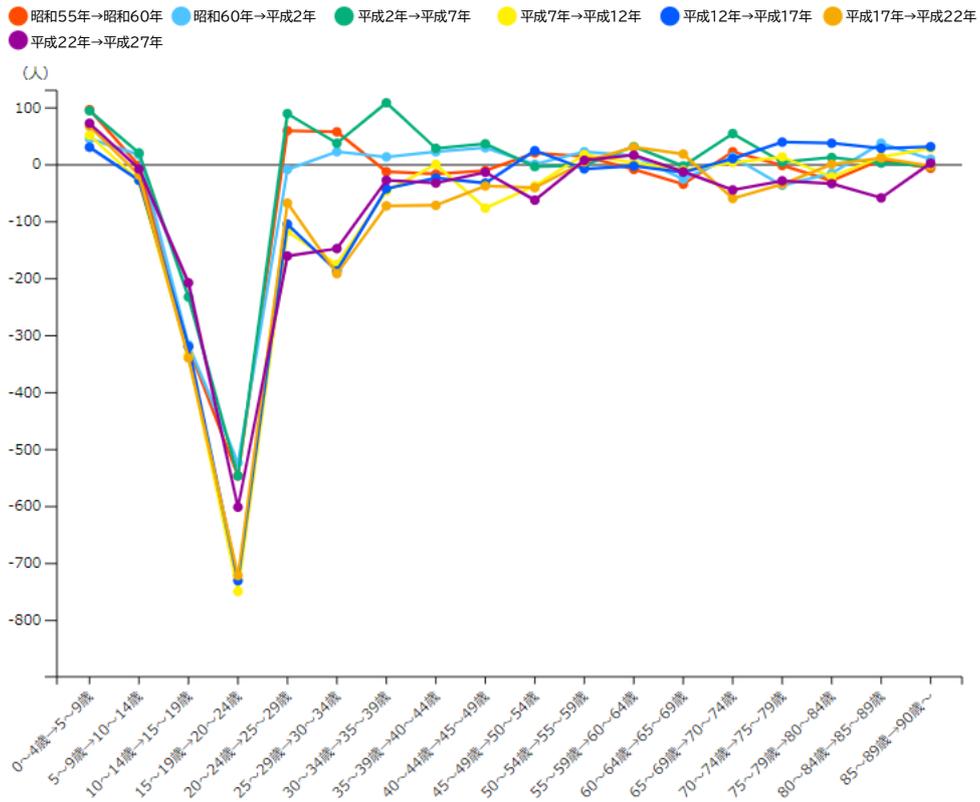
資料：RESAS

【合計特殊出生率と15歳-49歳の人口推移】



資料：RESAS

【年齢階級別純移動数の時系列分析】



資料：RESAS

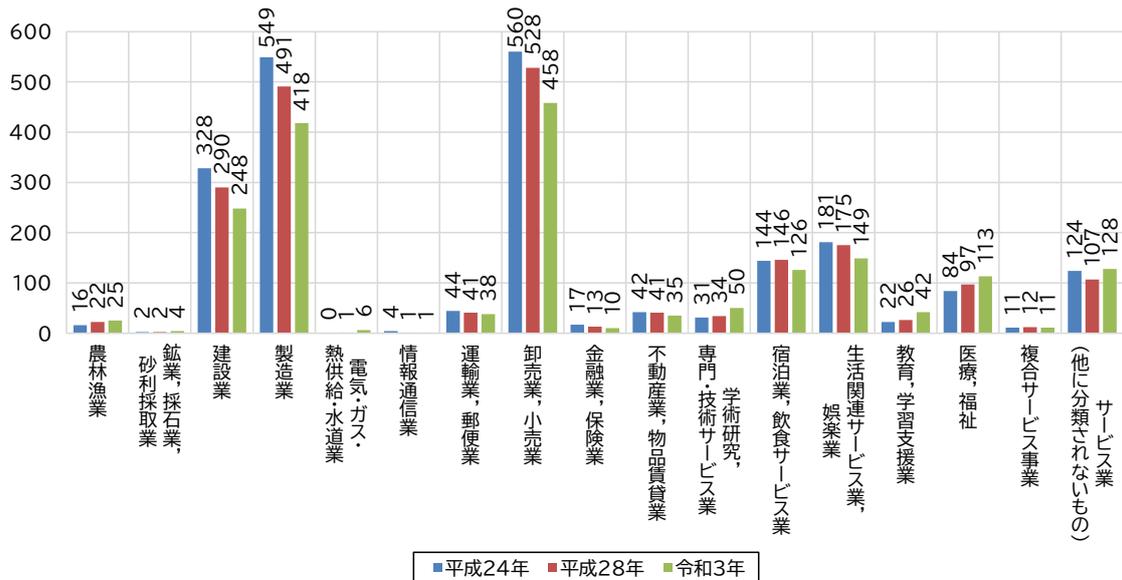
本市の人口動態を踏まえ、周辺地域の活性化に向けて、子育てしやすい環境や若者の地域への定着の視点も必要となります。

④ 産業

本市における令和3年の民営事業所数は1,862事業所、従業者数は14,351人となっており、平成24年の2,159事業所、従業者数14,995人と比べ、全体的に減少傾向が続いています。産業としては製造業特に「窯業・土石製品」の分野において事業所や従業者が多い特性がある地域となっています。

(事業所)

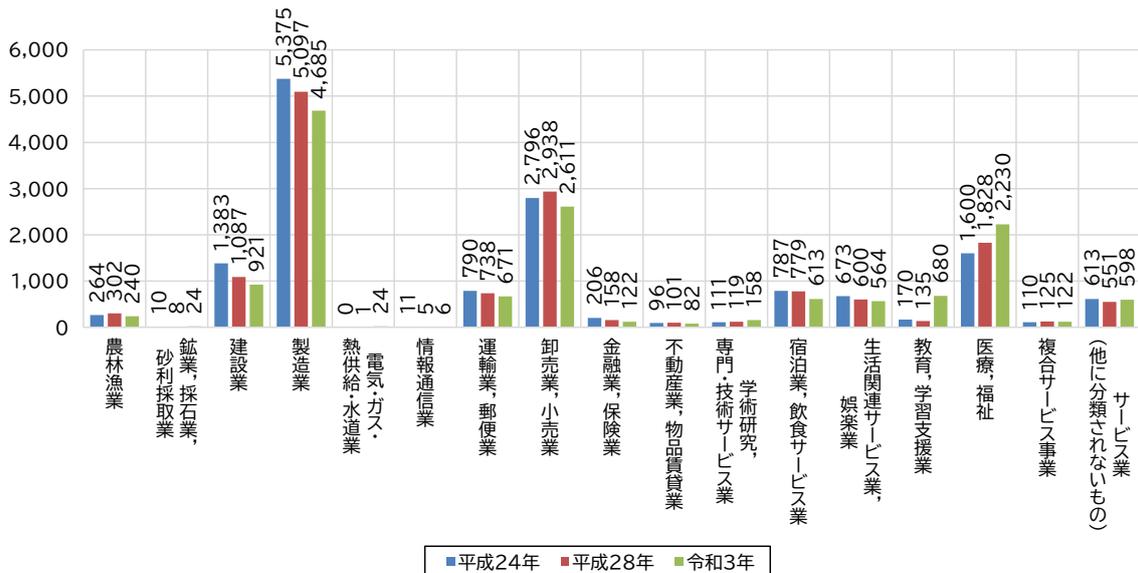
【事業所数の推移】



資料：経済センサス活動調査

(人)

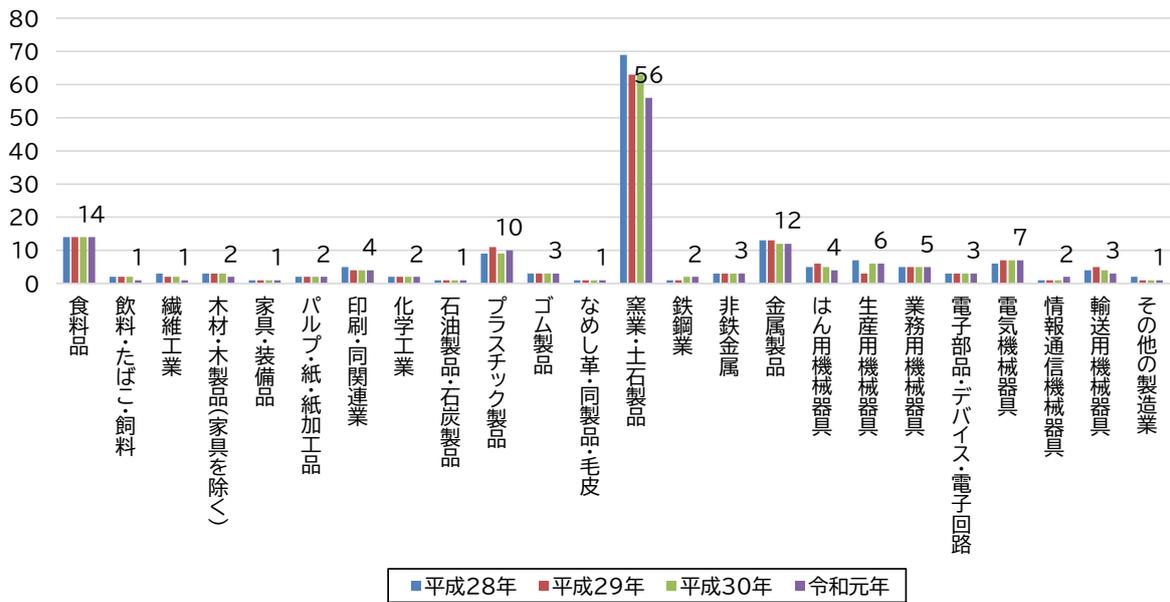
【従業者数の推移】



資料：経済センサス活動調査

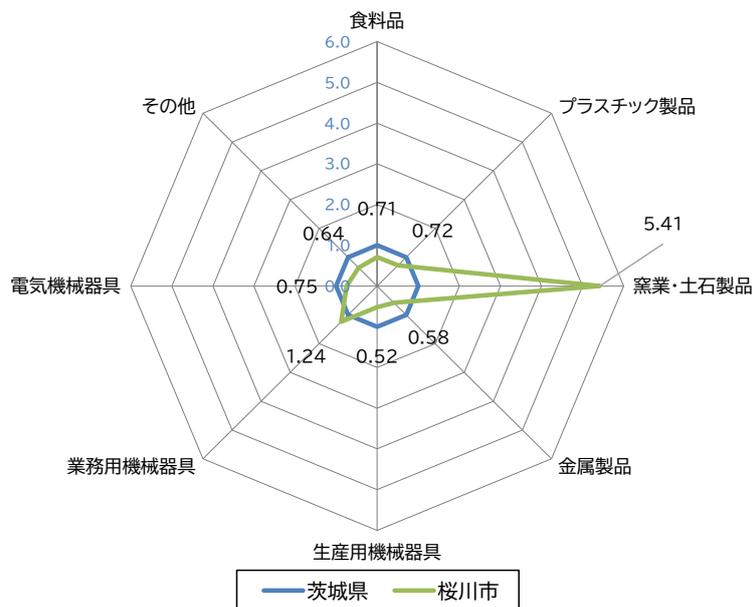
(事業所)

【製造業の事業所の推移】



資料：工業統計調査

【製造業の事業所数の構成比の特化係数】



* 桜川市における構成比3%以下の業種は「その他」に集約した
資料：工業統計調査

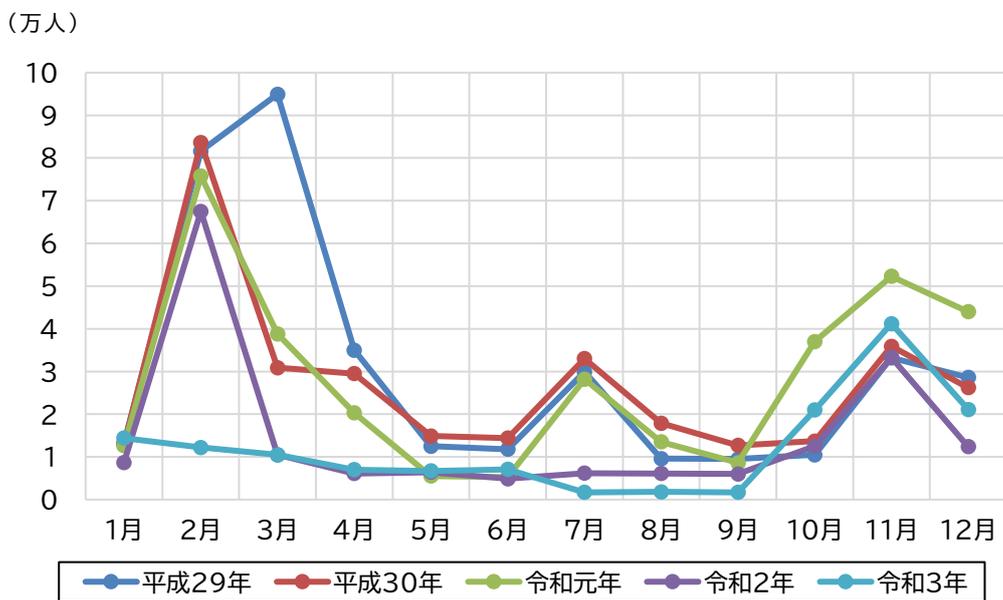
事業所数や従業者数が減少傾向にあるなかで、石材業等の地域の特色ある産業を生かした新たな付加価値の創造や、創業者の増加等による地域の活性化を図っていく必要があります。

⑤ 観光

本市の令和3年の延べ入込客数は14万6,400人で、前年比81.1%となり、コロナ禍により大幅減となった令和2年の18万600人からさらに減少し、過去5年間でピークであった平成29年の37万300人から、22万3,900人減となっています。

月別内訳から本市の特徴をみると、例年であれば、真壁のひなまつりが開催される2月をピークとして、7月、11月にも一定の盛り上がりが見られましたが、コロナの感染拡大を境に、令和2年7月、令和3年2月の客数増が消失したことが全体の減少に繋がっている様子が伺えます。

【図表1-2-41 延べ入込客数の月別推移(平成29年～令和3年)】



年次	月別内訳(万人)												計 (万人)	前年比
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
平成29年	1.32	8.16	9.49	3.50	1.25	1.18	2.99	0.96	0.95	1.05	3.32	2.86	37.03	109.8%
平成30年	1.30	8.36	3.09	2.95	1.49	1.44	3.30	1.79	1.27	1.37	3.59	2.62	32.57	88.0%
令和元年	1.26	7.58	3.88	2.03	0.55	0.53	2.82	1.35	0.86	3.70	5.23	4.40	34.19	105.0%
令和2年	0.87	6.75	1.05	0.61	0.64	0.49	0.62	0.61	0.60	1.25	3.33	1.24	18.06	52.8%
令和3年	1.44	1.22	1.05	0.70	0.67	0.71	0.17	0.18	0.17	2.10	4.12	2.11	14.64	81.1%

資料：茨城県観光客動態調査報告

本市への延べ入込客数は上曾トンネル周辺地域で開催される「真壁のひなまつり」によって年間を通じて最も集客が図れていましたが、コロナ禍以降では大きく減少しており、トンネルの開通と併せたアフターコロナにおける観光客の回復が期待されます。

⑥昼夜人口比率(通勤・通学状況)

本市の昼夜人口比率は令和 2 年時点で、88.4%となっており、9,684 人が市外へ通勤通学を行っています。主な通勤・通学先は筑西市となっており、流入・流出が最も多い地域となっています。人口が減少している一方で、つくば市からの流入・流出数は増加しています。一方でトンネル開通先である石岡市からの流入・流出数は現状多くありません。

【昼夜人口比率】

	平成 22 年	平成 27 年	令和 2 年
昼間人口(人)	35,322	33,531	31,068
夜間人口(人)	39,865	37,740	35,137
昼夜間人口比率	88.6%	88.9%	88.4%

資料：国勢調査

【主な近隣市町村別の通勤・通学の状況】

	市町村	平成 22 年		平成 27 年		令和 2 年	
		人	構成比	人	構成比	人	構成比
桜川市から市外への 通勤・通学者	筑西市	4,260	39.9%	3,992	38.6%	3,745	38.7%
	つくば市	1,246	11.7%	1,306	12.6%	1,338	13.8%
	水戸市	795	7.5%	772	7.5%	678	7.0%
	笠間市	632	5.9%	647	6.3%	599	6.2%
	下妻市	522	4.9%	618	6.0%	528	5.5%
	真岡市	424	4.0%	433	4.2%	425	4.4%
	土浦市	328	3.1%	310	3.0%	315	3.3%
	結城市	281	2.6%	298	2.9%	267	2.8%
	小山市	277	2.6%	265	2.6%	242	2.5%
	石岡市	173	1.6%	174	1.7%	178	1.8%
	その他	1,733	16.2%	1,526	14.8%	1,369	14.0%
合計	10,671	100.0%	10,341	100.0%	9,684	100.0%	
市外から桜川市への 通勤・通学者	筑西市	2,851	48.9%	2,839	46.8%	2,551	45.4%
	笠間市	865	14.8%	901	14.9%	765	13.6%
	真岡市	290	5.0%	385	6.4%	383	6.8%
	つくば市	278	4.8%	269	4.4%	317	5.7%
	下妻市	219	3.8%	220	3.6%	212	3.8%
	結城市	189	3.2%	206	3.4%	206	3.7%
	石岡市	184	3.2%	180	3.0%	149	2.7%
	水戸市	157	2.7%	173	2.9%	174	3.1%
	益子町	119	2.0%	164	2.7%	148	2.6%
	小山市	65	1.1%	78	1.3%	70	1.3%
	その他	611	10.5%	646	10.7%	640	11.3%
合計	5,828	100.0%	6,061	100.0%	5,615	100.0%	

資料：国勢調査

上曽トンネルの開通に伴い地域間の人の流れも変化することが想定され、そうした変化も踏まえた地域の活性化を図っていく必要があります。

(2)上曾トンネルの開通が地域に与える影響

①推計交通量について

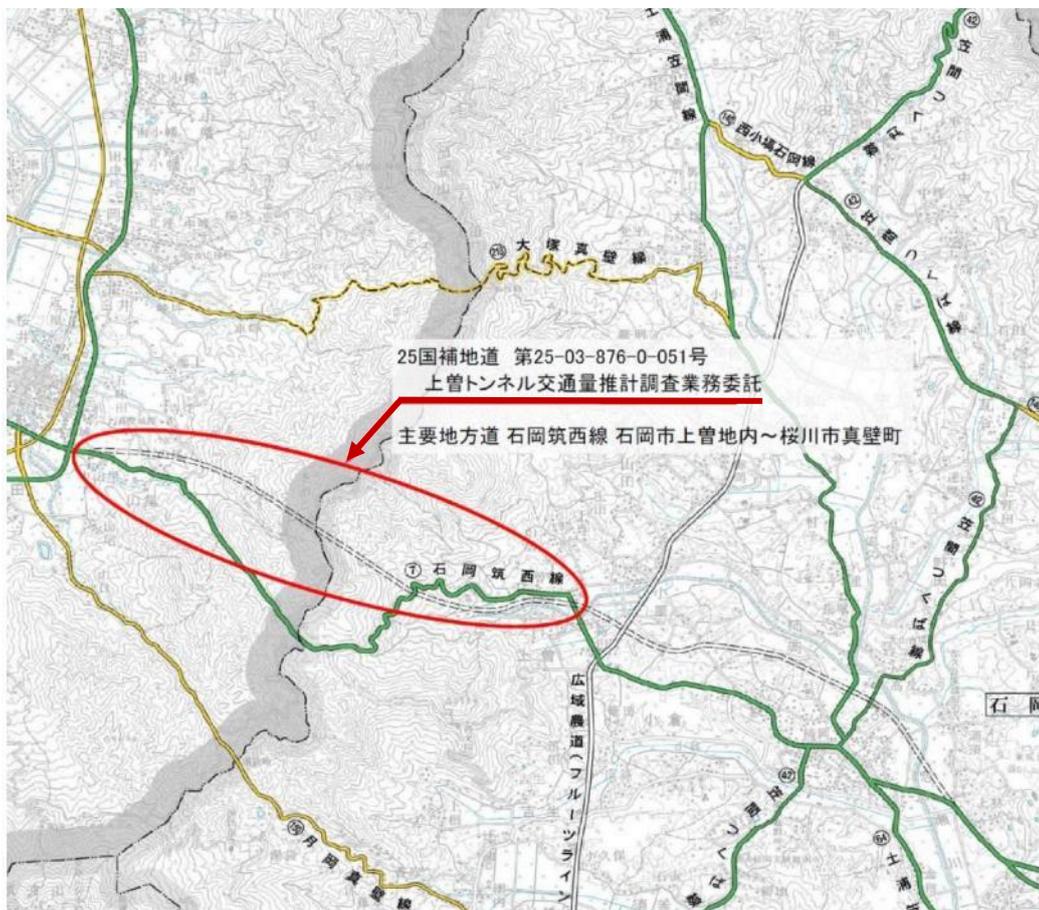
平成 26 年「25 国補地道 第 25 03 876 0 051 号交通量推計調査」(茨城県土浦土木事務所発注)において、上曾トンネルの整備による交通量の変化を以下のように推計しています。データの推計には平成 17 年の交通量データ及び平成 22 年の推計予測モデル等を活用しています。平成 22 年の推計予測モデルでは平成 27 年の石岡筑西線の交通量を推計予測しております。

予測モデルの推計値は他の石岡筑西線の交通量においても近い値を示しており、人口減少等の影響を受けるとは思われますが、トンネルの開通における交通量の目安とすることができます。

【上曾トンネルの開通による推計交通量(令和12年)】

上曾トンネルの整備あり	6,100 台/日
上曾トンネルの整備なし	1,600 台/日

※推計交通量対象地域(赤線にて図示)



資料:平成26年「25国補地道 第 25 03 876 0 051 号交通量推計調査」

また、「平成 27 年交通センサス」において、上曾峠の 24 時間交通量は 1,423 台/日となっており、詳細は以下となっています。

【①上曾峠の交通量(平成27年)】

	小型車(台)	大型車(台)	合計(台)
昼間12時間自動車類交通量(上下合計)	1,069	127	1,196
24時間自動車類交通量(上下合計)※推計値	1,269	154	1,423

交通量測定日:平成27年10月8日(木)

交通量観測地点:桜川市真壁町山尾114

資料:交通センサス

※石岡筑西線における平成22年予測モデルによる推計値と観測値の比較

地点	平成22年推計値 (台/日)	平成27年交通センサス (台/日)
②桜川市真壁町下谷貝442-7	9,302	8,296

資料:交通センサス

※市内交通量観測地点

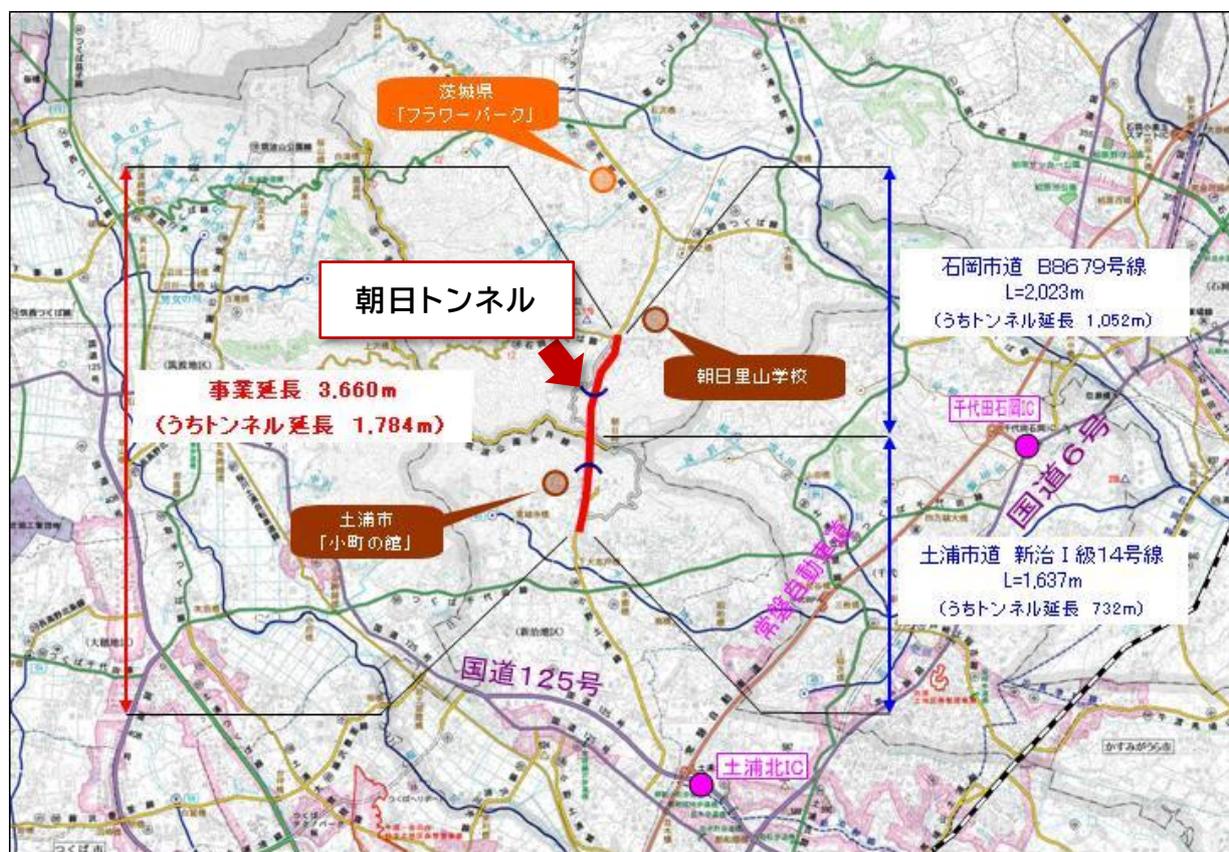


資料:国土地理院

②朝日トンネル開通による地域に与えた影響の整理

朝日トンネルは、茨城県土浦市と石岡市を結ぶ道路トンネルで平成 24 年 11 月 12 日に開通しました。朝日トンネルが整備されたことにより、朝日峠を越えるための走行時間が 10 分以上短縮され、「つくば・土浦－石岡・笠間」間のアクセス性が格段に向上し、安全性や利便性が向上しました。近隣市町村の事例である朝日トンネル開通が地域に与えた影響を整理することで上曽トンネル開通が地域に与える影響を分析します。

【朝日トンネルの位置】



資料：茨城県

■ 交通量の変化

朝日トンネル開通に伴う交通量の変化として、開通直後の平成24年11月の交通量の平均値は6,820台/日でありほぼ計画交通量どおりの実績を記録しています。その後もトンネルの開通を契機に地域間交流が活性化したためか、平成27年時点の交通量は計画交通量を大きく上回る8,600台/日となっています。

【朝日トンネル整備における交通量の変化】

朝日トンネル整備前 朝日峠交通量(平成17年時点)	1,000台/日
朝日トンネル整備前 計画交通量	6,800台/日
朝日トンネル開通後 平成24年11月交通量平均値	6,820台/日
朝日トンネル開通後 平成27年	8,600台/日

資料：茨城県

■ 地域間の人の流れの変化(通勤・通学)

朝日トンネル開通による石岡市及び土浦市と近隣市町村における通勤・通学の変化では、石岡市からの通勤・通学について、土浦市への流動数は大きな変化はありませんが、トンネル開通によって利便性が高まったつくば市への流動数や全体に占める割合は増加傾向が続いています。一方で土浦市では石岡市への通勤・通学者が増加しています。

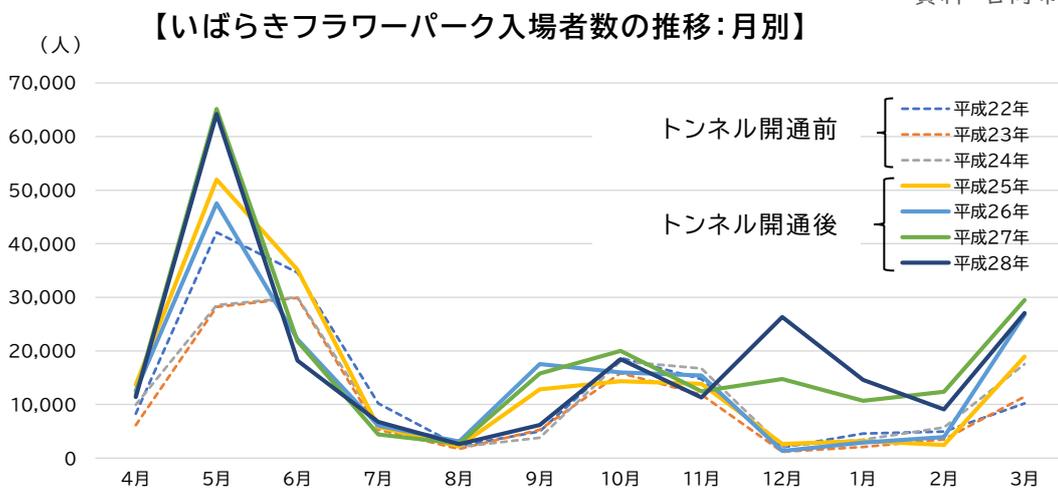
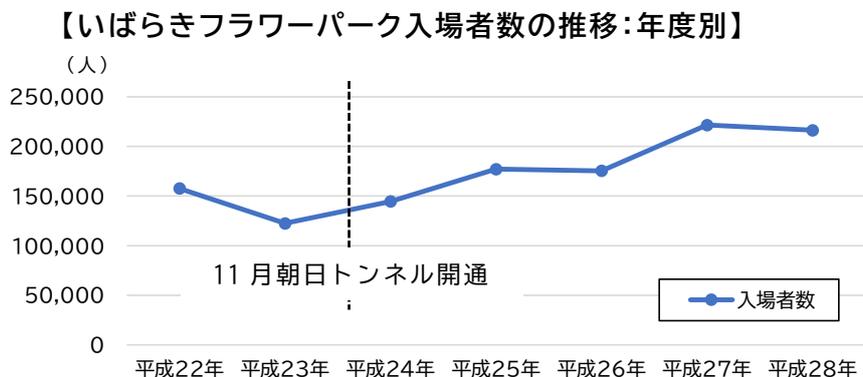
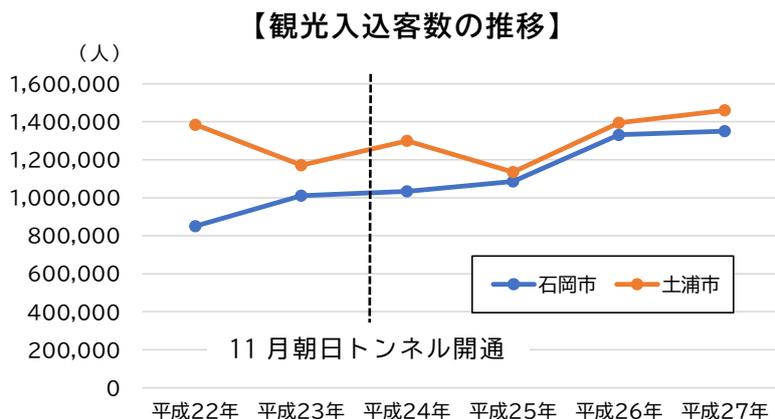
【朝日トンネル整備における通勤・通学状況の変化】

地域間	平成22年 朝日トンネル開通前	平成27年 朝日トンネル開通後	令和2年
	流動数 (全体に占める割合)	流動数 (全体に占める割合)	流動数 (全体に占める割合)
石岡市→土浦市	4,438人 (23.9%)	4,279人 (23.7%)	3,751人 (23.0%)
石岡市→つくば市	1,511人 (38.1%)	1,576人 (8.7%)	1,550人 (9.5%)
土浦市→石岡市	963人 (3.2%)	1,058人 (3.4%)	1,054人 (3.5%)
土浦市→つくば市	9,899人 (33.0%)	9,957人 (32.3%)	9,799人 (32.9%)

資料：国勢調査

■ 観光客の人の流れの変化

平成24年11月の朝日トンネル開通によって、石岡市、土浦市の両地域においてその後の観光入込客数が大きく増加しています。いばらきフラワーパークでも同様の増加を見せており、平成27年完了のリニューアルとトンネル開通の相乗効果も考えられます。また、平成27年より冬季のイルミネーションを実施しており、その時期限定でつくば駅と土浦駅から直通バスを運行する等の取り組みにより、冬季の入場者数が増えているのも特徴です。



③上曽トンネル開通が地域に与える影響 まとめ

■ 開通後は現在の交通量の約 4 倍の交通量の増加が想定されます

上曽トンネルの開通によって 1 日の交通量は、現在の交通量 1,400 台の 4 倍程度となる約 6,000 台が想定されます。石岡筑西線をはじめとした、上曽トンネル周辺地域を通過する車両（大型車含む）の増加が予想されます。

また、朝日トンネルの開通が地域に与えた影響を踏まえると、地域活性化によって計画交通量を上回る交通量を確保することも可能になると考えられます。

■ 地域間での通勤・通学者が増加する等、地域での暮らし方が多様化

朝日トンネルの開通により、石岡市、土浦市、つくば市間での通勤・通学者が増加した結果からも、上曽トンネルの開通によって、桜川市と石岡市方面での通勤・通学者が増加することが想定され、新たな交流が期待されます。

■ 観光客が増加するポテンシャルを有する地域に

上曽トンネルの開通によって、アクセス性の向上により、観光客の増加を図ることが可能となります。朝日トンネルの開通でも石岡市、土浦市両地域で観光入込客数が増加しており、つくば市及び首都圏へのアクセス性向上が要因と考えられます。

石岡市の八郷地区は観光のまちづくりを進めている地域で、いばらきフラワーパークが平成 27 年にリニューアル工事が完了する際には、冬季のイルミネーション等の様々な観光の取り組みを展開してきた事例もあります。上曽トンネルの開通ではつくば市や首都圏への直接的なアクセス性の向上には至りませんが、八郷地区から桜川市への周遊等の広域での誘客の視点や、開通を視野に入れた観光分野での取り組みが必要となります。

■ 生活利便性の向上による地域間交流・連携強化

上曽トンネルの開通により、冬季は凍結で往来に不安を抱えていた方も、通年で安心・安全に往来できるようになり、日常生活の利便性が向上することから、石岡市、桜川市間での買い物や観光目的での住民の交流が活発になり、物流や観光面での地域間の連携強化が見込まれます。

上記した、上曽トンネル開通による変化を視野に、周辺地域の目指すべき方向性や必要な機能を検討していく必要があります。

(3) 調査結果の概要

真壁地区在住の中学生へのアンケート調査や上曽トンネル開通に伴う地域活性化委員へのヒアリング調査、ワークショップの結果の概要について記載します。

① 上曽トンネル周辺地域 中学生アンケート調査 結果概要

■ 調査概要

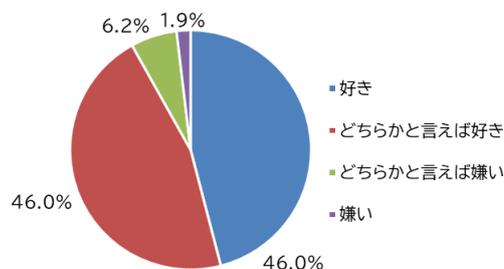
対 象：桜川市立桃山学園 後期課程 7年生から9年生
 桜川市立桜川中学校 中学1年生から中学3年生
 方 法：WEB回答フォームによるアンケート調査
 設 問：真壁地区や上曽トンネル周辺地域に関する設問全10問
 回答数：161

■ 結果概要

問3 あなたは真壁が好きですか？

- 回答者の約5割が「真壁が好き」と回答しています。
- 「真壁が好き」と回答した理由として、自然が豊かな点や伝統的な町並み、お祭り等の歴史や文化があることを理由に挙げる回答が多くなっています。

総数	161	100.0%
好き	74	46.0%
どちらかと言えば好き	74	46.0%
どちらかと言えば嫌い	10	6.2%
嫌い	3	1.9%

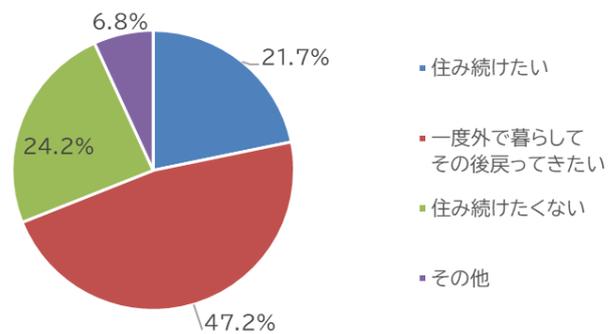


「真壁が好き」と回答した理由 抜粋	「どちらかと言えば嫌い」「嫌い」と回答した理由 抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ● 自然が豊かだから ● いろんな文化が楽しめるから ● 古い町並みがあるから ● 歴史のある町並みで田んぼが綺麗 ● お祭りがあるから ● ずっと住んでいるから ● 住みやすくみんな優しいから ● 昔っぽい町がいっぱいあるから 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 発展していないから ● つまらない ● 田舎すぎる ● 何もないから 等

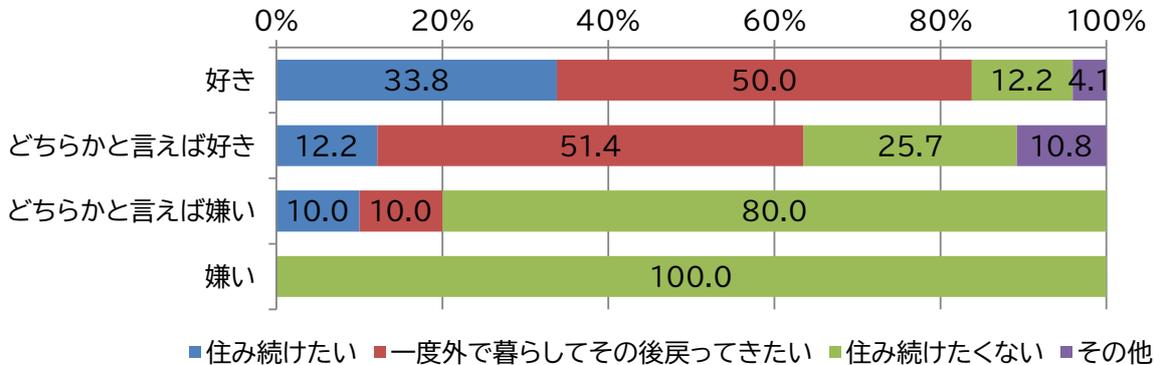
問5 あなたは今後真壁に住み続けたいと思いますか。

- 今後の真壁への定住意向について、「一度外で暮らしてその後戻ってきたい」と約5割が回答しており最も多くなっています。「真壁が好き」と回答した人ほど「住み続けたい」との回答は多くなっていますが、「一度外で暮らしてその後戻ってきたい」も約5割が選択しています。
- 「住み続けたい」との回答の理由としては真壁への愛着や自然、歴史・文化を理由に挙げている人が多く、「一度外で暮らしてその後戻ってきたい」との回答では、都会等一度は外に出てみたい、いずれは戻ってきたいという理由も多いことが分かります。
- 「その他」の回答ではわからない、悩んでいるとの回答が挙がっています。

総数	161	100.0%
住み続けたい	35	21.7%
一度外で暮らしてその後戻ってきたい	76	47.2%
住み続けたくない	39	24.2%
その他	11	6.8%



【クロス集計：真壁への愛着別の回答】



「住み続けたい」と回答した理由 抜粋	「一度外で暮らして戻ってきたい」と回答した理由 抜粋
<ul style="list-style-type: none"> ● お店を継ぎたい ● ずっと住んできたから ● 空気が美味しく、落ち着けるから ● 自然がいいから ● 好きだから ● 真壁に生まれたことを誇りに思っており、真壁が好きだから ● 歴史を残したい 等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 他のところにも行きたいから ● 都会に行ってみたい ● 一度違うところに行ってそこで吸収したものを桜川で生かすため ● 他のところにも住んで挑戦してみたいから ● 真壁以外の町の良さも知りたいから ● 歳を取ったら真壁の自然の中で暮らしたいから ● 1回故郷を離れるということも大切だと思うから 等

問7 大事にしたい良いところ、未来に残したい良いところなど、あなたの地域の“推し”（他の人に勧めたいモノ、コト（体験・経験）、人など）とその理由を教えてください。

- 真壁の町並みや伝統的なお祭り、真壁伝承館、自然豊かな環境やつくば霞ヶ浦りんりんロード、真壁のひなまつりといった意見が多く挙がっています。

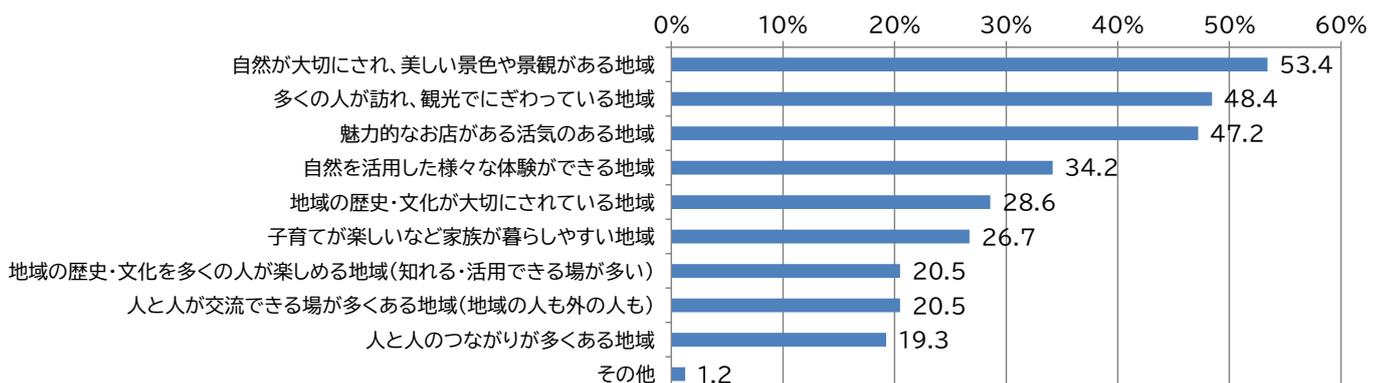
問8 上曽トンネル周辺地域にあなたが必要だと思う場所やもの、コト（体験・経験）をおしえてください。

- 公園や飲食店が必要との意見が多く挙がっていました。その他に宿泊施設や商業施設、みんなで集まれる場所等の意見が挙がっています。

問9 上曽トンネル周辺地域について、今後どのような地域になってほしいですか。（3つまで選択可）

- 上曽トンネル周辺地域の今後について、「自然が大切にされ、美しい景色や景観がある地域」を選択する人が最も多く全体の約5割が選択しています。「多くの人を訪れ、観光でにぎわっている地域」、「魅力的なお店がある活気のある地域」が続きます。
- 地域への愛着別や定住意向別でも上位項目に大きな変化はありませんが、「住み続けたくない」と回答した人は魅力的な店舗や子育て環境の向上を望む意見が多くなっています。
- 「その他」の回答では発展して便利な地域等の回答が挙がっています。

総数	161	100.0%
自然が大切にされ、美しい景色や景観がある地域	86	53.4%
多くの人を訪れ、観光でにぎわっている地域	78	48.4%
魅力的なお店がある活気のある地域	76	47.2%
自然を活用した様々な体験ができる地域	55	34.2%
地域の歴史・文化が大切にされている地域	46	28.6%
子育てが楽しいなど家族が暮らしやすい地域	43	26.7%
地域の歴史・文化を多くの人を楽しめる地域(知れる・活用できる場が多い)	33	20.5%
人と人が交流できる場が多くある地域(地域の人も外の人も)	33	20.5%
人と人のつながりが多くある地域	31	19.3%
その他	2	1.2%



【クロス集計：真壁への愛着・定住意向別の上位回答】

	「真壁が好き」と回答した人	「真壁に住み続けたい」と回答した人	「真壁に住み続けたくない」と回答した人
1位	自然が大切にされ、美しい景色や景観がある地域 [55.4%]	多くの人が訪れ、観光でにぎわっている地域 [60.0%]	魅力的なお店がある活気のある地域 [64.1%]
2位	多くの人が訪れ、観光でにぎわっている地域 [54.1%]	自然が大切にされ、美しい景色や景観がある地域 [45.7%]	多くの人が訪れ、観光でにぎわっている地域 [51.3%]
3位	自然を活用した様々な体験ができる地域 [39.2%]	魅力的なお店がある活気のある地域 [42.9%]	自然が大切にされ、美しい景色や景観がある地域 [46.2%]
4位	魅力的なお店がある活気のある地域 [37.8%]	自然を活用した様々な体験ができる地域 [40.0%]	子育てが楽しいなど家族が暮らしやすい地域 [38.5%]
5位	地域の歴史・文化が大切にされている地域 [29.7%]	地域の歴史・文化が大切にされている地域 [28.6%]	地域の歴史・文化が大切にされている地域 [30.8%]

問10 上曾トンネル周辺地域であなた自身がこれからやりたいこと、関わりたいこと、将来的にはどんな暮らし方をしたいかなど、自由に考えやアイデアを書いてください。

- 以下に一部意見を抜粋して記載します。

- 伝統的工芸品の歴史を身近に体験できるようにしたい。
 - 大人になっても、ひなまつりや夏祭りに行きたい
 - 昔のことにもっと触れたい
 - 真壁の町並みを守っていききたい
 - もし真壁が子育てしやすいまちになっていれば、結婚後も真壁で生活したい
 - たくさんの人が訪れる町にしたい
 - ボランティアなどをして自然を壊さない活動をする
 - 自然あふれている地域にしたい
 - 観光客がたくさん来てにぎわっている暮らし
 - 祇園祭などの行事に取り組みたい
 - 子どもが自由に遊べる場所を作りたいし楽に楽しめる所にしたい
- 等

②ヒアリング調査 結果概要

■ 調査概要

対 象：上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会 委員
方 法：ヒアリング調査
設 問：上曾トンネル周辺地域の現状や課題について等

■ 結果概要

- 来訪者の減少や地域にお金が落ちない点、高齢化や事業者の減少、担い手の不足、重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」という。）の活用に向けた所有者との調整、耕作放棄地等が課題として挙がっています。
- 上曾トンネルの開通に向けて、交通量が増加しても通過するだけにならない取り組みや、真壁城跡との連携、自然環境の保全等の意見がありました。
- また、若い世代の取り組みの応援や連携をしていきたい等の意見も挙がっています。

地域の抱える課題について 一部抜粋

- 人が来ないことが一番の課題。ひなまつりで人は来るが、売るものがない。売るものをつくる元気がない。真壁地区の若い経営者はセミナーに参加したり、持続化給付金を活用する等しているが、若い経営者があまりいない。起業希望者を募集しても集まらない。石材で賑わった地域であり、商売っ気があまりない地域である。石材事業者数も最盛期の4分の1に。
- 若い人は、子育て支援の制度がなかなかない。子どもたちが安心して自由に伸び伸び遊べる場所、いくらでも遊べる場所等、求めているかもしれない。子どもたちが喜ぶような、自由に考えて遊べるようなものをうまく設けられれば。なかなか近隣にはない。小さくてもいいから高齢者が移れるデイサービスセンターとかがあり、そこで子どもと交流できるような。
- 重伝建地区は高齢化が進んでいる。空き家問題、防災について木造が多いから倒壊等のリスクもある。歴史的建造物の保存・保全に関しては、改装の予算や事業を行う担い手側の問題等いくつか課題がある。貸してくれればいいが、貸すのをためらうという問題もある。
- 若い方が真壁でカフェをやりたいと思っても、貸し手がないことで、真壁での開店が叶わず他市でやりたいことを実現したという例もある。
- 真壁地区は、飲食店が減っているが、利便性低下という意味で生活の質が下がってきているともいえるかもしれない。
- 地域で行われてきたひなまつり等もコンセプトの共有をしたほうが良い。観光ではなく、

おもてなしの一環であること。観光ではないので、無理につなげてもイベントごとに客層が違ふ。お客様をつなげるのはそう単純ではない。

- 活動してきた中で荒れ地が多くなってきたことが問題だと感じている。耕作放棄地が多くなっている。

地域の今後の方向性について 一部抜粋

【商業等について】

- 商店等、高齢化が進んでおり、やっている人は同じである。立ち寄れるものがないと、交通量が増えても素通りするだけになってしまう。

【景観等について】

- 地域のいいところとしては町の中から山が見え、自然景観と一体化していることといった景観面のことがある。
- 表示板のサイン・看板等も桜川独自の自然の中に溶け込んで、かつ目立つものがあるといい。立ち止まって見入ってしまうような看板が真壁に必要と考える。

【真壁城跡との関係について】

- 真壁城跡の歴史的背景を踏まえ、取り組みを展開していかないと意味がないものになってしまう。ただイベントをやればよいというわけではない。
- 城跡の整備もあり、トンネルが開通する中、長期スパンで考える必要がある。同じ真壁に重伝建地区があり、意味的につながっている。今後を考えたとき、城跡のアクセスの面と連携して考えた方がよい。
- ストーンフェスティバル等を実施できる新たな場所があるといい。ちょっとしたイベントがすぐできる常設で展示会ができるような広場ができれば。交通量が多くなれば、人の目に触れる機会が多くなる。

【環境対策等】

- 新道ができたら旧道がゴミ捨て場になる危険性がある。
- 基本的に生態系を壊さないようにしてほしい。自然のなかで新鮮な空気を吸ってリフレッシュしている。

その他

- 祭りは地域共同体の核になる。
- 体験ができて、残していけるものがあるといい。ひなまつりの時に参加型のイベントがあるといい。(みんなで一つの作品を作るようなもの)
- 如何に続けていくかについては、町の人たちが“喜んで生き甲斐を持ってやってくれるか”というところが重要であり、そういったところが大切。
- 重伝建地区のエリアは新しいことをやるのが難しいと思う。
- 重伝建地区の物件をどう活用していくかというところがあるが、活用には至っていない。重伝建地区は、空き家が増えている。住んでもらうことが一番の活用と考えられるが、住んでくれる人が増える方策が重要。
- 以前から棚田は有名だった。秩父連山～浅間山～赤城山～日光と見渡すことができる。稲刈りの際に眼下に真壁のまちや真壁城跡がみえるだろう。なかなか地元の人だけで管理していくということが難しくなっている。
- 原風景を残してほしい。具体的には重伝建地区、棚田。棚田は日本全国で減ってきている。棚田のオーナー制はよいと思う。
- この町で、観光・非日常体験を提供する人がいない。みかんの北限ということも考えた方がよい。都内から人を呼ぶなら、筑波山であると思う。筑波山を中心とした観光を考えた方が桜川市は面白くなると思う。
- 若い人に任せた方がいい。まつりとか郷土愛とかそういったものは、認識しづらいかもしれないが思い出を蓄積して発想するものもあると思う。
- 声をかけてみても中高生がなかなか手伝ってくれない。今後若い世代や学校との連携ももう少し円滑にできるとよい。

③ワークショップ 実施結果概要

■ 実施概要

目的：対象地域の目指すべき将来像を考える

第1回：10月29日 テーマ「対象地域の魅力とは？」

第2回：11月19日 テーマ「対象地域の在り方とは？」

第3回：12月 3日 テーマ「地域の将来像と必要な機能とは？」

■ 結果概要：上曾トンネル周辺地域の将来像（目指す方向性と機能）に関する意見

- ワークショップでは地域の持つ魅力、課題から目指すべき将来像と必要な機能について検討するワークを全3回実施しました。
- 参加者の意見として、観光客だけでなく住民や真壁地区が好きな市外の方等いろいろな人にとっても魅力ある地域を目指していきたいとの意見が多く、いろいろな方が交流・参画できる仕組みや取り組みが必要との意見が挙がっています。
- 重伝建地区等の真壁の歴史・文化や、豊かな自然環境の活用ができる機能、“おもてなし”の文化の継承、地域に愛着を持つための取り組み等を求める意見が挙がっています。

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ● 歴史を体感できる場所 ● 文化財の観覧ができ、そして楽しんでもらえる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 宿泊学習や研修のパックを提供する ● 神社等の催事に参加できる ● 古民家に宿泊 ● 藍染め体験ができる

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族で立ち寄れる場所・地域 ● 家族連れで楽しめる地域 ● 家族・子ども・動物と一緒に楽しめる施設
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 小さい子ども遊べる場所 ● ペット同伴で遊べる場所 ● ドッグカフェ・ドッグラン

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ● 集まれる場所 ● 観光客が楽しめる場所 ● みんなが集まれる楽しい場所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 人と人が出会い交流する ● 案内所の充実

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事・喫茶・休める場所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商品開発、新たなご当地グルメ ・ 食べられる／遊べる フードコート

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ みんなのふるさと ・ また来たくなる地域
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 真壁でしかできないアクティビティ ・ 観光・まちの総合案内 ・ 飲食店や観光地をつなぐプラットフォーム

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆるいつながり ・ 誰でも提案できるまち ・ 何かあった時に助け合える
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ おもてなしの文化、おふくわけの文化 ・ 色々な人がまざりあう場 ・ まちのグランドデザインをみんなで考えられる場（今回のワークショップのような） ・ まちの誇りを知る仕組み ・ 重伝建地区の歴史を知れる仕組み ・ 新しいテクノロジー、デジタル目安箱 ・ 真壁を楽しむための提案をできる仕組み（アナログ、デジタル）

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベッドタウン、観光目的で立ち寄れるところ（住みやすい）
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交通インフラ ・ まちの誇りを知る仕組み ・ 色々な人がまざりあう場 ・ 貴重だけど使われないもったいない建築の活用

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人でも家族でもどんな人にも優しく楽しく暮らせるまち ・ 一人でも楽しめる（観光・暮らし両方） ・ まちの中で生活が完結する ・ 高齢化して運転できなくても住める町 ・ 将来もこの町で生活したいと思える ・ まちの中で生活が完結する
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ お店（飲食、衣食住） ・ 無人でも安心してまちを回れる仕組み ・ 見守りサービス、買い物サービス ・ まちのユビキタス化（医療等） ・ 健康保全

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温故知新、古いところと新しいものがまざりあう ・ 若者がふらっと来て回れる ・ また来たい、来てよかったと思われる地域
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 魅力が伝わる仕組み ・ 重伝建地区の歴史を知れる仕組み ・ 歴史巡り ・ 真壁城跡、VR体験 ・ 江戸の生活体験 ・ 重伝建地区来訪者が利用できる宿泊施設 ・ 宿泊施設(キャンプ場、ドッグラン)⇒真壁小学校の跡地を有効活用 ・ 交通インフラ、レジャー ・ サイクルステーション(高上町駐車場) ・ 電気自動車の充電施設(駐車場)

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の若者が住み続けたいくなる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しいコミュニティ ・ SNS/インターネットのできる場所 ・ 他地域の若者も集まってくる ・ いつも新しい流行が生まれる

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい資本主義を実験する先進的田舎 ・ 安全で ・ ゆとりのある生活・居住地 ・ 居心地の良い暮らし ・ 安価な暮らし
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業手伝い・クラインガルテン ・ 労働力の提供⇔現物支給 ・ 移動手段の相互提供 ・ 地域通貨…「円」でなく地域内で流通

将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族で行ってみたい、何かを体験できる。共に遊べる場所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に立ち寄れる(情報提供) ・ 遊具がある ・ 犬等も一緒に遊べる ・ 歴史体験(伝統工芸) ・ 歴史宿泊 ・ 交流フォトコン

将来像	<ul style="list-style-type: none"> 町の伝統や工芸を体験し、新たに農業等、新たに育てる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 継承してくれる人をそこから仕事にできる仕組み 伝統的工芸品、芸能をみせる

将来像	<ul style="list-style-type: none"> 地元の人が住みやすく、観光客がリピートしたいと思う場所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 田舎の風景。古民家 田舎でないとできない体験 滞在型施設

将来像	<ul style="list-style-type: none"> 自分の住む場所の歴史に興味を持てる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を教えてくれる、知ることができる場所

将来像	<ul style="list-style-type: none"> 地元住民と観光客が交流できる（ふれあえる）
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 重伝建地区に宿泊体験イベント

将来像	<ul style="list-style-type: none"> また訪れてゆったり・のんびりした時を過ごせると思ってもらえる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 古民家・空き家の活用

将来像	<ul style="list-style-type: none"> まるごと真壁!案内所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> ひらめきが生まれる（物・体験・住む）案内所 どんどん増やしていく

将来像	<ul style="list-style-type: none"> 特産物を活用した体験ができる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 福来みかんや真壁高校農産物を加工・体験できる

(4) 地域の特性・課題のまとめ

■ 人口

本市の人口の特性として1世帯あたりの人数が多い特徴がありますが、一方で人口減少と少子高齢化が進んでおり、若い世代を中心とした筑西市やつくば市等周辺市町村への流出が課題となっています。若い世代の定着や子育てしやすい環境づくりによる出生率の増加、人口減少社会における活力の維持が求められています。

■ 歴史・文化

国指定史跡の真壁城跡や400年続く真壁祇園祭、平成22年に国の重伝建地区に選定された町並み等は、市民の誇りとなる歴史・文化資源であり、それらの文化財の保存に留意する必要があります。こうした地域の歴史・文化は次世代を担う子どもたちが地域に愛着をいだくきっかけにもなっており、真壁伝承館等、新たな施設も整備されていますが、特に皆が誇りをいただく重伝建地区の町並みの保存・活用が課題となっています。地域の歴史・文化を学ぶ機会の創出や、真壁城跡と重伝建地区等の多くの地域資源を一体的に捉え発信していく取り組み等も検討が必要です。

■ 自然環境

上曽トンネル開口部のそばで自然に囲まれた五所駒瀧神社、山間部のキャンプ場、市街地から望む雄大な筑波山や田園風景等、豊かな自然環境も地域の大きな魅力となっており、地域への愛着を育んでいます。担い手不足による棚田の耕作放棄地への推移や、トンネル開通による旧道の自然環境の悪化等、地域の自然環境や景観の保全は課題となっており、保全に向けた体験コンテンツづくりや地域外の協力者との関わりによる、自然を生かした資源の活用が必要となっています。

■ 産業

本市の事業所数や従業者数は減少傾向にあり、みかげ石等の良質石材を産出し、地域の産業の中心を担っていた石材産業も同様の傾向にあります。創業希望者も少なく、新たな働き手の確保も課題となっています。上曽トンネル開通に伴い交通量の増加が想定される一方で、通過するだけの交通とならないように、地域への滞在や消費を促していく仕組みが必要であり、既存の資源を活用した新たな取り組みや新たな担い手の確保が必要です。

■ 観光

地域への観光客は毎年「真壁のひなまつり」の時期にピークを迎えていましたが、コロナ禍で開催を見送っていた期間は大きく観光客数が減少していました。上曽トンネルの開通により観光客の増加が期待されますが、一方で石岡市方面からの誘客等の広域観光の視点が必要であり、トンネルの開通を視野に、実際に人が訪れ、地域にお金が落ちる仕組みづくりが必要です。

■ 暮らし

上曽トンネルの開通によって、石岡市方面との人の交流が増加することが想定され、茨城空港からの東西に結ぶ基軸も形成されることから、地域内外での人の交流が活性化することが想定されます。また、公園の設置や子ども連れでも遊べる場所、家族や多世代で集まれる場所等を求める意見も多く、地域内での暮らしを充実させていく方策も求められています。

■ 市民の参画

人口減少やコロナ禍の影響もあり地域の経済は厳しい状況にあり、地域の歴史・文化や自然環境を活用し、若者の定着を増やしていく活動や、一度市外へ出た方が地域に関われる交流の場づくり、地域外との交流による新たな付加価値の創出等を官民連携で取り組む必要があります。

3. 目指すべき方向性と 必要な機能

3. 目指すべき方向性と必要な機能

(1) 目指すべき方向性

上曾トンネルの開通をきっかけとして、
住民にとっても来訪者にとっても魅力的な地域を目指し、
“おふくわけ”※で活性化していく地域へ。

※ おふくわけ

よそからもらったものを、他に分けてやること。本地域には“おもてなし”の文化があり、訪れてくれた人をおもてなします。本地域においても地域の持つ資源や各自の持つ資源を使って人にふくを分け与える。その人がまた誰かに分け与えていくことで魅力的な地域を作っていきます。地域内外の人でふくを分け与えていきます。

①情報の発信

地域への誇りの醸成、誘客やブランディングのためにも地域のもつ魅力を地域内外へ発信していきます。また、情報プラットフォームを構築し一元的に発信していく場を併せて設置することで、上曾トンネル開通により増加する通過交通者への発信を図っていきます。

②交流の創出

地域内の住民の交流の場、地域外との交流の場、来訪する観光客と地域のコンテンツをつないでいく場等の、様々な交流の機会を創出していくことで、人口減少社会においても、新たな経済的な付加価値の創出や暮らしの充実を生み出していきます。

③体験づくり

自然環境保全のための自然体験、地域の資源や産業を生かした観光体験等、新たな体験を生み出していくことで、地域資源の持続可能な継承や地域外からの外貨の獲得を行っていきます。

④歴史・文化の継承・活用

歴史・文化の継承や活用を図っていくため、重伝建地区や真壁城跡等の保全・活用の取り組みを様々な連携を広げながら行っていき、地域への愛着や誇りの醸成をすることにより、本地域にしかない魅力づくりを行っていきます。

⑤市民活動支援(仕組み化)

住民や民間と連携した取り組みを進めていくための仕組みづくりや、地域で何かしたい人を応援する仕組みづくりを構築することで、地域での担い手を確保していきます。また、様々な取り組みを通して地域への愛着と誇りを醸成し、活力ある地域づくりを目指していきます。

(2) 必要な機能について

① 情報の発信

1-1: 地域の魅力を発信していく機能

真壁城跡や重伝建地区等の地域の持つ歴史・文化や豊かな自然環境、石材産業の歴史、“おもてなし”の取り組み等、上曽トンネル周辺地域の魅力を、住民や観光客等の地域内外へ発信していくことで、地域への愛着の醸成と地域外からの誘客を図っていきます。

1-2: 情報プラットフォーム機能

情報を一元的に発信していく案内所機能を整備し情報プラットフォームを構築することで、地域の魅力的な交流の場や体験コンテンツに、来訪者がアクセスできる環境を整備していきます。また、上曽トンネル開通に伴う交通量の増加を通過交通にしないよう案内所より情報を発信していきます。

② 交流の創出

2-1: ゲートウェイ機能

真壁城跡南側空き地を活用し、地域外からの来訪者を、重伝建地区やつくば霞ヶ浦りんりんロード等の魅力的な場へ送り出していく地域の玄関口としての機能を設置していきます。

2-2: 市民と来訪者が交流できる機能

住民や地域に愛着を持った方、来訪者等、人と人が出会い交流することで、新たな取り組みを生み出していく機能を獲得していきます。

2-3: 地域の人々が交流し楽しく暮らせる機能

地域の子どもたちや高齢者等、誰もが楽しめ、安全・安心に暮らしていける地域づくりのため、多世代で交流できる機能を獲得していきます。

③ 体験づくり

3-1: 豊かな自然環境を保全・活用していく機能

地域の豊かな自然環境を活用したアクティビティの提供や、自然景観を活用した体験づくりを行っていくことで地域の自然環境の保全・活用を図っていきます。

3-2: 家族で楽しめる機能

家族連れや小さい子どもでも楽しめる体験をつくることで、魅力ある地域を目指していきます。

3-3: 地域資源を活用した体験機能

地域の資源を活用した食事や体験等、地域に滞在できる機能を獲得していき提供していきます。

④ 歴史・文化の継承・活用

4-1: 重伝建地区の保存・活用機能

重伝建地区の保存や活用を地域への愛着や誇りの醸成につなげ、新たなチャレンジの場づくりや次世代への継承を図っていきます。

4-2: 真壁城跡と連携したまちづくりの機能

真壁城跡の各種調査や取り組みと連携していくことで、地域の歴史・文化を一体的に捉え継承・活用していく機能確立していきます。

⑤ 市民活動の支援(仕組み化)

5-1: 地域での活動を支援する機能

上曾トンネル周辺地域で、なにか始めたいと考えている人がまちづくりへ参加できる仕組みづくりを行っていきます。

5-2: 地域への誇りを継承していく機能

1-1から5-1までの機能の獲得を踏まえ、地域の持つ誇りや魅力を継承し、地域への愛着を育むことで、地域に関わっていく人を増やしていきます。

4. 地域の将来像

4. 地域の将来像

必要な機能を獲得していくことで、“おふくわけ”で活性化していく地域を目指していきます。そこでは、例えば以下のような取り組みが行われています。



※場所や内容等はイメージとなります。

2-1
重伝建地区、登山道入口等に来訪者を誘導

3-3
地域資源を活用した
みかん狩り体験

3-2
広場で遊ぶ子どもと家族

2-2
住民と来訪者が交流し
新しいアイデアが誕生

5-1
学生が町中で様々な取り組みを企画

5-2
藍染め体験が行われ、
地域の持つ誇りを継承

5. 今後について

5. 今後について

基本構想の策定後には、市民参画で、構想の実現を目指していきます。

上曾トンネル周辺地域活性化基本構想 策定

✓ 個別計画の策定

- 構想の実現において行うべきことを具体的に定めた個別計画を策定していきます。

✓ 関連計画と整合性を図った機能の具体化

- 「桜川市第2次総合計画後期基本計画」等の主な関連計画と整合性を図りながら、必要な機能の具体化を検討していきます。
- 今後改定される計画において、本基本構想に基づき、必要な機能の具体化を検討していきます。

✓ 分野別の施策化

- 基本構想を実現するために必要な施策を分野別に検討していきます。

6. 資料編 ～策定経緯～

6. 資料編 ～策定経緯～

(1) 策定の経緯

年月日	内容
令和4年	
8月1日	第1回上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会 基本構想策定スケジュール(案)について 検討エリアの設定について
10月29日	第1回上曾トンネル周辺地域活性化ワークショップ 地域の魅力と課題について
10月26～28日、 11月14日	上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員ヒアリング 地域の現状と抱える課題について
11月19日	第2回上曾トンネル周辺地域活性化ワークショップ 魅力的なエリアについて
11月28日	第2回上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会 経過報告(ワークショップ・ヒアリング)について
12月3日	第3回上曾トンネル周辺地域活性化ワークショップ エリアに必要な機能について
12月16日～12月23日	中学生アンケートの実施 真壁地区と周辺地域について
令和5年	
1月26日	第10回定例庁議 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想の策定状況について パブリックコメントの実施について
1月30日	第3回上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想(案)について
2月13日～3月14日	パブリックコメントの実施
2月27日	第11回定例庁議 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想の策定状況について
2月28日	総務常任委員会 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想(案)について
3月2日	議会全員協議会 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想(案)について
3月23日	第4回上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想(案)について
3月28日	第12回定例庁議 パブリックコメントの実施結果について 上曾トンネル周辺地域活性化基本構想の決定

(2)上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会について

①上曾トンネル開通に伴う地域活性化委員会 委員名簿

		職名	氏名	役職
1	識見を有する者	筑波大学システム情報系教授	藤川 昌樹	委員長
2	市議会議員	市議会議員	小林 正紀	
3	各種団体の 役員等	千年の森の会 代表	櫻井 崇	
4		ディスカバーまかべ 副会長	田中 宣寛	
5		まかべ日和の会 代表	田中 良枝	
6		桜川市区長会真壁支部 会長	常盤 恵一	副委員長
7		桜川本物づくり委員会 代表	西岡 勇一郎	
8		桜川市観光協会 会長	橋本 慶晴	
9		真壁石材協同組合 理事長	林 清	
10		桜川市商工会 会長	皆川 光吉	
11		真壁のひなまつり実行委員会 委員長	村上 宏	
12		まかべの街灯りプロジェクト 代表	村上 頼子	
13	市職員	桜川市副市長	小林 達徳	

②桜川市上曽トンネル開通に伴う地域活性化委員会設置要綱

桜川市上曽トンネル開通に伴う地域活性化委員会設置要綱

令和4年6月8日

桜川市告示第86号

(設置)

第1条 上曽トンネルの開通に伴い、周辺地域の魅力を高め、広く発信することにより、地域の活性化を図るため、上曽トンネル開通に伴う地域活性化委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項を掌握する。

- (1) 上曽トンネル開通に伴う地域活性化のための基本構想及び各計画策定に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、15人以内の委員で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから桜川市（以下「市」という。）が委嘱する。

- (1) 識見を有する者
- (2) 市議会議員
- (3) 各種団体の役員等
- (4) 市職員
- (5) その他市が必要と認める者

3 委員の任期は、委嘱を受けた日から基本構想及び各計画策定に係る審議が終了する日までとする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長1人を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 議事は、出席委員の過半数で決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 委員会は、災害等やむを得ない事情があるときは、書面、オンライン会議等、その他の手段をもって代えることができる。

(意見の聴取)

第6条 委員長は、必要があると認めるときに関係者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、企画課において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この告示は、公布の日から施行する。

(委員召集の特例)

2 この告示の施行の日以後最初に招集される委員会の会議は、第5条第1項の規定にかかわらず、市長が招集する。

(この告示の失効)

3 この告示は、第2条に規定する所掌事務が終了した日をもって、その効力を失う。

(3)上曽トンネル周辺地域活性化ワークショップについて

①ワークショップの参加者について

周辺地域で活動している民間団体の方や、地域と関わりのある大学生、高校生や地域の自治会、市役所職員等より若い世代を中心に計21名で実施しました。

②ワークショップでの意見

■ 第1回ワークショップ(令和4年10月29日開催)

「対象地域の魅力とは？」をテーマに、周辺地域の活性化を考えていく上で必要となる、対象地域の魅力となる資源や伸びしろとなる課題について参加者で話し合いました。



【第1回ワークショップ意見一覧】

ワーク1:対象地域の「推し」(魅力)についての意見

班	分類	意見
A	地域住民	そとからの人にやさしい
		人が優しくてあたたかい
		みんな真壁がすき
	食文化	伊勢屋旅館のご飯がおいしい
		すいとん
		みかん
		七味とうがらし
		和菓子
	歴史・伝統芸能(お祭り)	"お祭り(ひなまつり、祇園祭) 市内外問わず誘客(観光・関係人口)"
		真壁のひなまつり 江戸時代の古いお雛様から幼児が作ったものまで街中を歩きながら らみることができる
		江戸時代初めの町割りが残っている(江戸時代の古地図で現在の

班	分類	意見
		町内を歩ける)
		江戸・明治・大正・昭和の建造物を実際にみることができる
		重伝建地区・文化財、城跡等歴史的建築
		伝統文化(お祭り)
	ハード面(建物・施設・デザイン)	五所駒瀧神社(かったて祭)、加波山神社
		伝承館がとてもきれい
	アウトドア	真壁の町並み、りんりんロード
		ハイキング(関東ふれあいの道)
		"サイクリング(りんりんロード・山道)
		→りんりんロード(10万人/年) →市東側の登山道をサイクリングルートとして活用"
B	歴史と古い町並み	古い町がある
		色々古い
		歴史的な資源がある
		川越と並ぶ重伝建地区
		城下町の町並み
		国指定史跡真壁城跡
	お祭り	ひなまつり
		住民によるまちおこし
		夏祭り
		十三夜祭等の定期的にある小さな祭り
		祇園祭
		文化的なイベントが意外と多い
	農業	農作物が多い
	食べ物	伝承館前の昔ながらのコロッケ
		B級グルメ?すいとん
	石文化	日本有数の石の文化
		石材業
	静か	静か
		のどか
		人が少ない
山々の景観	筑波山の景観	
	周囲の山の景色	
	星が綺麗	
	山に囲まれていて綺麗	
	高い建物が無い	
夕日が綺麗	夕日	

班	分類	意見	
		自転車の道	
		富士山が見える	
		夕日がきれい	
		紫峰、筑波山が紫色に見える	
	犬が過ごしやすい環境	大型犬が散歩しやすい	
		真壁小学校跡地の広いグラウンド	
C	祭礼	十三夜祭	
		ひなまつり	
		おもてなシスターズ	
		おもてなし	
		真壁の夏祭り	
		真壁の話になるとけっこうみんな夢中になる	
	自然と文化財	景色がいい・散歩が楽しい	
		重伝建地区	
		真壁城跡が入り口になる。五所駒瀧神社	
		桜川	
		山桜の景観	
		自然と文化財	
		山登り	
		サイクリング(りんりんロード)	
	人物	伊勢屋旅館の女将	
		真壁白井座	
	食べ物	さつき食堂	
		うり坊	
		つくばプリン	
		酒寄みかん園・福来みかん	
		和菓子屋さんが多い	
		宮本精肉店	
		みよしやさんの冷やし中華	
	D	人	おもてなしの心(人があたたかい)
			人と人のつながり
			健康で長生き
		産業	石材業
みかげ石(石材業)			
歴史		五所駒瀧神社、かったて祭、花火	
		ひなまつりのにぎわい	
		お祭	
		400年続く真壁祇園祭	
		真壁祇園祭	

班	分類	意見
		真壁の町並み
		歴史ある伝正寺
		真壁城跡
		堀が残った城跡がある
		神社や寺が多い
	自然	桜
		ヤマザクラ
		山桜の美
		連なった山
		桜川がある
		広大な田畑がある
	食	福来みかん
		ユメシホウ(小麦)を使ったパン
		そば粉を作っている
	観光	りんりんロード

ワーク2:対象地域の「伸びしろ」(課題)についての意見

班	分類	意見
A	PR・情報発信	情報発信・広報力
		外の市町村とのつながり
	文化財・空き家活用	町並みが中途半端
		文化財 地図はあるが、ないとみるだけ、QRコードで見られると
		古民家・空き家 →コワーキングスペース・お試し居住
	自転車	サイクリスト向け施設の拡張(レンタサイクル・お土産屋)
		りんりんロードの目的地がない
	道路	細い道路にも車が多く通る
		バスの時刻が間に合わない(通勤で使用できない)
		林道が整備されていない
	お店・お土産・カフェ	お土産を買う所が、そこに寄れば買えるような
		ちょっと立ち寄れるお店がない、Cafe的な
		本屋さんが欲しい
		友達と入りやすいカフェのような場所があったらいい
		食堂が少ない
圧倒的な名物がない		
B	若い人	若い人の当事者意識
		若い世代に向けたアピール
	PR力	プロモーションが足りない

班	分類	意見
		組み合わせのPR力
	自然と建物の活用	自然と建物のセット
		何もない美しい景観
		土地・建物の利活用のジャンル分析ができていない
	歴史的文化財の活用	歴史的な物の有効活用
		文化財の活用が少ない
	古民家の活用	古民家を利用したカフェ(写真スポット)
		古民家の有効活用
		ギャラリーとして活用
	その他	働く場所
		飲食店が少ない
		休日になるとみんな外に出ていく
		公園が少ない
		子どもが少ない
	C	遊びたい
発信力		
カフェ		
カラオケ		
フラワーパーク		
高校生の八百屋さん		
タイムスリップ横丁		
本気・遊びたい		ショッピングモール
		若い子が遊べる場所
本気の施設		廃校利用(空き家も!)
		楽しめる宿泊施設
		本気の公園
		りんりんロード(食べ物を買えたり!)
イベント		各種祭典(いろんな人が参加できる)
		季節に影響されない催し
MADE IN まかべ		綿の栽培
		石
		インスタ映えする地元スイーツ
		地域自慢をできる人
交通		交通アクセス
		電車(の復活)
交流		みちの駅
		駅(まちの駅)
		コミュニティスペース
		学習スペース

班	分類	意見
D	人口	空地が整備されていない
		少子高齢化
		人口減少
		空き地・空き家が多い
		高齢化
	交通インフラ	街灯が少ない
		街灯が少なく町が暗い
		信号が少なく危ない
		道がせまい
		電波が弱い
		交通 電車がない
		公共交通が乏しい
		国道・電車がない 交通が不便
	娯楽	観光施設がない
		喫茶店がない
		遊ぶ所少ない
		ショッピングモールがない
		大型ショッピングが欲しい
		(イベント時以外は)賑わいがいい
	施設	教育機関が少ない
		公共施設が少ない
施設がバラバラにある		

■ 第2回ワークショップ(令和4年11月19日開催)

「対象地域の在り方とは？」をテーマに、魅力的な地域に必要な要素や目指すべき方向性について参加者で話し合いました。



【第2回ワークショップ意見一覧】

第2回ワークショップ Aグループ

魅力的なエリアとは？	魅力的なエリアに必要な要素とは？
<ul style="list-style-type: none"> 真壁城跡 五所駒瀧神社 重伝建地区 (その中で開催する祭り) 	<ul style="list-style-type: none"> 重伝建地区と新しいスポーツ 住んでいる人たちの理解(定期的な勉強会) 住民や子どもたちが学ぶ機会→伝承館を活用
<ul style="list-style-type: none"> スタート地点になる山際のエリア 気軽に登山できる山 りんりんロード 筑波山と富士山が見える 観光スポット、グルメ(食事処・カフェ)が点在している 	<ul style="list-style-type: none"> スポット同士のアクセス手段の充実(公共交通・レンタサイクル) 行くべき場所やオススメのスポットが明確になっている 場所の案内看板や観光案内拠点 アクセス(移動)が便利 時間とお金を使える 車がなくてもつくばまでアクセスできる
<ul style="list-style-type: none"> 目的地として来てくれる 非日常的な体験ができる場所 非日常を体験できる 子どもたちも楽しめる場所がある(ワークショップ・体験) 	<ul style="list-style-type: none"> 発信力 広告塔
<ul style="list-style-type: none"> 食堂 食べ物がおいしい 酒蔵・醸造 ペンギン お土産がある 	<ul style="list-style-type: none"> 自宅を活用したカフェ 真壁高校生によるブランディング 街の雰囲気を楽しむながら食事 (人がたくさんきても)おもてなしをちゃんとできる 人にたくさん来てほしい
<ul style="list-style-type: none"> 「また来たい」と思える場所 誰かに紹介できる場所 桜川市に住んでいるから外目線が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 良識の方が来てくれる 人のつながりがある 人のつながり、あいさつが桜川のよさ おもてなしの心 あいさつが日常
<ul style="list-style-type: none"> 駐車場ではなく集会を兼ねたプラットフォーム 休憩所を兼ねた集会所 コワーキングスペース(誰でも使いやすい施設) 使いやすい借りやすい施設、フレキシブルに使用できる 	<ul style="list-style-type: none"> (住みこみながら)人をつなぐ お悩みを調べてくれる(ITも活用して) 利便性が高い ワンストップ、一箇所で済む 各種支援制度の充実(移住・子育て・医療) 連携できる(仕組み) 制度をあらわすキャッチコピー(母になるなら流山) 住民の生活に寄り添った制度が確立している 誇り・自信。この“まち”が好きという思い 真壁小学校跡地の活用について考える
<ul style="list-style-type: none"> 来るだけで社会貢献 Makapan(障がい者支援、障がい者も活躍できる) 	

第2回ワークショップ Bグループ

魅力的なエリアとは？	魅力的なエリアに必要な要素とは？
<ul style="list-style-type: none"> • おみやげが買いたい、体験したい • 特色のあるグルメ(激安、大盛) 	<ul style="list-style-type: none"> • おみやげ屋 • 洋菓子 • 道の駅 • 特産物が多数ある施設 • ご当地グルメ(例:下館ラーメン)→真壁ラーメン • スタンプラリー
<ul style="list-style-type: none"> • 子ども連れて遊べる場所 • 小さい子ども遊べる場所 • 家族連れで楽しめる • 家族が楽しめるお祭り 	<ul style="list-style-type: none"> • アスレチック・ボルダリング体験 • ペットと一緒にくつろげる場所or遊べる場所 • キャンプ場。きれいな場所であること • 広い敷地で1日過ごせる公園 • ドッグラン • 広い駐車場
<ul style="list-style-type: none"> • 歴史を知ることができる場所 • 神社が多数あるので体験型の楽しみ • 真壁の歴史について「やさしく」わかる場所 • 重伝建地区について手短かにわかる場所 • 外の方に勧められる 	<ul style="list-style-type: none"> • 古民家に泊まれる • 真壁についていろいろお話ししてくれる人 • 場所(方向、距離)が分かりやすい看板 • 真壁宿泊ツアー、藍染め体験、火わたり • 酒蔵見学
<ul style="list-style-type: none"> • 真壁小学校跡地の再利用 	<ul style="list-style-type: none"> • インターネットを利用して宣伝 • インスタ映えするスポット • 空から見える景色 • カフェ • 景色をモチーフにしたメニュー • 散策したあと(途中に)ちょっと休める場所
<ul style="list-style-type: none"> • 若い人が来てくれる 	<ul style="list-style-type: none"> • パンフレットをたくさん • 一元化した案内所が必要 • 案内人をふやしたい、育成も • サイクリスト向けの休憩所(レンタサイクル)
<ul style="list-style-type: none"> • 初めて観光して楽しめる 	
<ul style="list-style-type: none"> • ひとりでも楽しめる 	

第2回ワークショップ Cグループ

魅力的なエリアとは？	魅力的なエリアに必要な要素とは？
<ul style="list-style-type: none"> • 新しい体験・発見ができる • お祭り • 景色 • 山が連なっている。多くの登山コース • 人に紹介したくなる • 人に話したくなる • インスタ映えポイントがある(写真を撮りたくなる) • 古い町並み • 真壁城跡 <p style="text-align: center;">文化・歴史</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 非日常体験 • 地域の雰囲気味わう • 季節のイベントを体験する • 人が優しい • 歴史的な重要性 • 祭りを盛り上げる地元の情熱 • 友達との思いで • 周りの人との交流 • 健康で長生きの人がいる
<ul style="list-style-type: none"> • 魅力的な食(ここでしか食べられない) • そば打ち体験 • すいとん • カフェ • また来たくなる • 誇れる町 <p style="text-align: center;">食</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ここでしか食べられない食 • 写真に残る • テレビ/SNSで話題になっている • 周りの人に伝えたい • 自慢したい、人に話したい
<ul style="list-style-type: none"> • 街の歩き方のオススメ 	<ul style="list-style-type: none"> • 情報へのアクセスのしやすさ
<ul style="list-style-type: none"> • 魅力的な宿泊施設 	<ul style="list-style-type: none"> • おいしい食事 • 地域の食材を使った料理 • 清潔/きれい
<ul style="list-style-type: none"> • 魅力的なアクティビティ • りんりんロード • カヌーで川下り • 川釣り • みかん園 • キャンプ • 農業体験 <p style="text-align: center;">魅力的な アクティビティ</p>	<ul style="list-style-type: none"> • コースマップ • 休憩所 • いやし。都会人が田舎にきていやされる • イベント(参加型)、講習会、集い • 公共交通の充実

■ 第3回ワークショップ(令和4年12月3日開催)

「地域の将来像と必要な機能とは？」をテーマに、周辺地域の目指すべき将来像や必要な機能について参加者で話し合いました。



【第3回ワークショップ意見一覧】

グループA

<アイデア①>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> 歴史を体感できる場所 文化財の観覧ができ、そして楽しんでもらえる
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊学習や研修のバックを提供する 神社等の催事に参加できる 古民家に宿泊 藍染め体験ができる
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> 街並み案内ボランティア 先生・教育関係者(社会科学習の場として) 子ども

<アイデア②>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> 家族で立ち寄れる場所・地域 家族連れで楽しめる地域 家族・子ども・動物と一緒に楽しめる施設
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> 小さい子ども遊べる場所 ペット同伴で遊べる場所 ドッグカフェ・ドッグラン
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> 犬を飼っている人 動物好きな人

<アイデア③>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • 集まれる場所 • 観光客の楽しめる場所 • みんなが集まれる楽しい場所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • 人と人が出会い交流する • 案内所の充実
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> • 商店街の人 • 住民

<アイデア④>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • 食事・喫茶・休める場所
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • 商品開発、新たなご当地グルメ • 食べられる／遊べる フードコート
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> • グルメな人 • 飲食店

<アイデア⑤>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • みんなのふるさと • また来たくなる地域
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • 真壁でしかできないアクティビティ • 観光・まちの総合案内 • 飲食店や観光地をつなぐプラットフォーム
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> • 出身者 • 飲食店 • 地場産業

グループB

<アイデア①>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • ゆるいつながり • 誰でも要望を言えるまち • 何かあった時に助け合える
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • おもてなしの文化、おふくわけの文化 • 色々な人がまざりあう場 • まちのランドデザインをみんなで考えられる場(今回のワークショップのような) • まちの誇りを知る仕組み • 重伝建地区の歴史を知れる仕組み • 新しいテクノロジー、デジタル目安箱 • 真壁を楽しむための提案をできる仕組み(アナログ、デジタル)

ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> • 新しく住んだ人 • 新しい人に会いたい人 • 地元のことを知らない地元の人 • 地元のことを友人に紹介したい人
---------	--

<アイデア②>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • ベッドタウン、観光目的で立ち寄れるところ(住みやすい)
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • 交通インフラ • まちの誇りを知る仕組み • 色々な人が混ざり合う場 • 貴重だけど使われないもったいない建築の活用
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> • 新しく住んだ人 • 重伝建地区に住みたい人

<アイデア③>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • 1人でも家族でもどんな人にも優しく楽しく暮らせるまち • 1人でも楽しめる(観光・暮らし両方) • まちの中で生活が完結する • 高齢化して運転できなくても住める町 • 将来もこの町で生活したいと思える • まちの中で生活が完結する
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • お店(飲食、衣食住) • 無人でも安心してまちを回れる仕組み • 見守りサービス、買い物サービス • まちのユビキタス化(医療等) • 健康保全
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> • 高齢者 • サービスを提供する人 • 働ける障がい者 • 一人で過ごす若者

<アイデア④>

将来像 (目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> • 温故知新、古いことと新しいことがまざりあう • 若者がふらっと来て回れる • また来たい、来てよかったと思われる地域
必要な機能	<ul style="list-style-type: none"> • 魅力が伝わる仕組み • 重伝建地区の歴史を知れる仕組み • 歴史巡り • 真壁城跡地、VR体験 • 江戸の生活体験 • 重伝建地区来訪者が利用できる宿泊施設 • 宿泊施設(キャンプ場、ドッグラン)⇒真壁小学校の跡地を有効活用

	<ul style="list-style-type: none"> 交通インフラ、レジャー サイクルステーション(高上町駐車場) 電気自動車の充電施設(駐車場)
ワクワクする人	<ul style="list-style-type: none"> 観光客 ふらっとくる若者 歴史好きの旅行者 働ける障がい者

グループC

将来像	必要な機能	ワクワクする人	エリア想定
地元の若者が住み続けたい なる	楽しいコミュニティ SNS/インターネットのできる 場所 他地域の若者も集まってくる いつも新しい流行が生まれる	女子高生・男子高生 Youtuber テレビ(いは6)	真壁小跡地
新しい資本主義を実験する 先進的田舎 安全でゆとりのある生活・居 住地 居心地の良い暮らし 安価な暮らし	農業手伝い・クラインガルテン 労働力の提供⇔現物支給 移動手段の相互提供 地域通貨…「円」でなく地域 内で流通	地元の全ての人(老若男 女) 周りの田舎 都会人(移住希望者) 行政	農地
地元の人が住みやすく、観 光客がリピートしたいと思 う場所	体験ができる	子ども 若者 地域おこしをしている人	真壁小跡地
家族で行ってみたい、何か を体験できる共に遊べる場 所	気軽に立ち寄れる(情報提 供) 遊具がある 犬等と一緒に遊べる 歴史体験(伝統工芸) 歴史宿泊 交流フォトコン	市役所等のアドバイスをし てくれる人 観光案内⇒移住案内	真壁小跡地 伊勢屋旅館
町の伝統や工芸を体験し、 新たに農業等、新たに育て る	継承してくれる人をそこから 仕事にできる仕組み 伝統的工芸品、芸能をみせる	とにかく前向きで明るい人 何事もいい方向に考えられ る人の気持ち考えをデザイ ンできる人	重伝建地区 真壁小跡地
都会人のための田舎	田舎の風景、古民家 田舎でないといけない体験 滞在型施設	都会人をもてなすことに喜 びを持つ地元住民 経済的なメリットのある地元 住民	真壁城跡 五所駒瀧神社
自分の住む場所の歴史に 興味を持てる	歴史を教えてくれる、知ること ができる場所	地域に住んでいる方々	重伝建地区

将来像	必要な機能	ワクワクする人	エリア想定
地域の人が地元の魅力を発見。発信できる	フォトコンテスト	地元自慢をしたいと思っている人 写真(カメラでもスマホでも)を撮るのが好きな人	真壁城跡 五所駒瀧神社
地元住民と観光客が交流できる(ふれあえる)	重伝建地区に宿泊体験イベント	おもてなしをしたいと思っている人	重伝建地区 (伊勢屋旅館)
また訪れてゆったり・のんびりした時を過ごせるとしてもらえる	古民家・空き家の活用	お話の好きな人 地域の方 交流(したい人)	重伝建地区
まるごと真壁!案内所	ひらめきが生まれる(物・体験・住む)案内所 どんどん増やしていく	アピールを楽しくできる人	特定のエリア 指定なし
特産物を活用した体験ができる	福来みかんや真壁高校農産物を加工・体験できる	子どもたち 真壁高校生 農家の方 直売所の方	重伝建地区 真壁小跡地

上曽トンネル周辺地域活性化基本構想

発行年月 令和 5 年 3 月

発行者 桜川市

〒309-1293

茨城県桜川市羽田 1023 番地

電話 0296-58-5111

編集 市長公室企画課



桜川市マスコットキャラクター

さくりん